



V-40HD のシステム・プログラムを最新の状態にしてお使いください。  
システム・プログラムのバージョンアップ情報は、ローランドのホームページ (<http://www.roland.co.jp/solution/>) をご覧ください。

# V-40HD

MULTI-FORMAT VIDEO SWITCHER

取扱説明書

Roland



#### 取扱説明書 (本書)

最初に読んでください。使いかたの基本操作を説明しています。



#### PDF マニュアル (Web からダウンロード)

##### ・ リモート・コントロール・ガイド

本機を MIDI および RS-232C 機器からリモート・コントロールするときの各種設定について解説しています。



#### PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。  
<http://www.roland.co.jp/manuals/>



2. 製品名 「V-40HD」 を選んでください。



# 安全上のご注意

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」と「使用上のご注意」(P.5)をよくお読みください。また、本機の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

## 火災・感電・傷害を防止するには

### △警告と△注意の意味について

 <b>警告</b>	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。  ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

### 図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	●は、強制（必ずすること）を表わしています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

### 警告

### 警告

#### 分解や改造をしない

- 本機または AC アダプターを分解したり、改造したりしないでください。



#### 個人で修理や部品交換はしない

- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。



#### 次のような場所で使用や保管はしない

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 湯気や油煙が当たる場所
- 塩害の恐れがある場所
- 雨に濡れる場所
- ほこりや砂ぼこりの多い場所
- 振動や揺れの多い場所



#### 不安定な場所に設置しない

- 本機を、ぐらつく台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。



#### 付属の AC アダプターを AC100V で使用する

- AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



#### 付属の電源コードを使用する

- 電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



#### 電源コードを傷つけない

- 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。



#### 大音量で長時間使用しない

- 本機との組み合わせでヘッドホン、アンプ、スピーカーを使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



#### 異物や液体を入れない、液体の入った容器を置かない

- 本機に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器（花びんなど）を置かないでください。ショートや誤動作など、故障となることがあります。



#### 異常や故障が生じたときは電源を切る

- 次のような場合は、直ちに電源を切って AC アダプターをコンセントから抜き、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。
  - AC アダプター本体、電源コード、またはプラグが破損したとき
  - 煙が出たり、異臭がしたりしたとき
  - 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
  - 機器が（雨などで）濡れたとき
  - 機器に異常や故障が生じたとき



## 警告

### お子様の取り扱いに注意する

- お子様のいる場所で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。



### 落としたり、強い衝撃を与えたりしない

- 本機を落としたり、本機に強い衝撃を与えたりしないでください。



### タコ足配線はしない

- 電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。



### 海外でそのまま使用しない

- 外国で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。



## 注意

### 風通しのよい場所に設置する

- 本機と AC アダプターは、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。



### AC アダプターはプラグを持って抜き差しする

- AC アダプターを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。



### AC アダプターのプラグを定期的に掃除する

- 定期的に AC アダプターを抜き、乾いた布でプラグ部分のゴミやほこりを拭き取ってください。また、長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから抜いてください。AC アダプターとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、絶縁不良を起こして火災の原因になります。



### コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

- 接続したコードやケーブル類は、煩雑にならないように配線してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配線してください。



### 上に乗ったり、重いものを置いたりしない

- 本機の上に乗ったり、機器の上に重いものを置いたりしないでください。



### 濡れた手で AC アダプターを抜き差ししない

- 濡れた手で AC アダプターのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。



### 移動するときはすべての接続をはずす

- 本機を移動するときは、AC アダプターをコンセントから抜き、外部機器との接続をはずしてください。



## 注意

### お手入れするときは AC アダプターをコンセントから抜く

- お手入れをするときには、電源を切って AC アダプターをコンセントから抜いてください (P.12)。



### 落雷の恐れがあるときは AC アダプターをコンセントから抜く

- 落雷の恐れがあるときは、早めに AC アダプターをコンセントから抜いてください。



### 小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

- 下記の部品はお子様が悪戯して飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。
  - 付属品
  - RCA - BNC 変換プラグ



### 接地端子の取り扱いに注意する

- 接地端子ネジは、お子様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、緩んで外れないように確実に取り付けてください。



### やけどしないように注意する

- 底面は高温になりますので、やけどしないよう注意してください。



# 使用上のご注意

## 電源について

- 本機を、インバーター制御の製品やモーターを使った電気製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなど）と同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズによって本機が誤動作したり雑音が発生したりすることがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
  - ACアダプターは長時間使用すると多少発熱しますが、故障ではありません。
  - 接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。
  - 以下のすべての状態が240分以上続いた場合、AUTO OFF機能がはたらき、本機の電源が自動的に切れます。
    - 本体の操作が行われない。（リモート・コントロールによる操作も含む）
    - ビデオの入力がない。
    - -48dBu以上のオーディオの入力がない。
- ※Systemメニューの[AUTO OFF]を[OFF]にすると、AUTO OFF機能がはたらかないように設定できます。「メニュー操作」(P.44)および「Systemメニュー」(P.49)をご参照ください。
- ※電源が切れると編集の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。

## 設置について

- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、本機との間隔や方向を変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させると、テレビ画面に色ムラが出たりラジオから雑音が出たりすることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴がつく（結露）することがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くと、安心してお使いいただけます。この場合、本機が滑って動いたりしないことを確認してからお使いください。
- 本機の上に水の入った容器、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

## お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、固く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。

## 修理について

- お客様が本機またはACアダプターを分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理に出される場合、記憶した内容が失われることがあります。大切な記憶内容はUSBメモリーに保存するか、記憶内容をメモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎた後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

## その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はメモしておいてください。
- 本体メモリー、USBメモリーの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ケーブルを抜くときは、ショートや断線を防ぐため、プラグ部分を持って引き抜いてください。
- 本機とオーディオ機器を接続して使用する場合、周囲に迷惑がからないように、音量に十分注意してください。
- 輸送や引っ越しをするときは、本機が入っていた箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- 本機が入っていた梱装箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。
- 音声の接続ケーブルには抵抗入りのものがあります。抵抗入りのケーブルを使用すると音が極端に小さくなったり、まったく聞こえなくなったりする場合があります。抵抗の入っていない接続ケーブルをお使いください。  
※他社製の接続ケーブルを使用する場合、仕様についてはケーブルのメーカーにお問い合わせください。

## USBメモリーをお使いになる前に

- USBメモリーは、確実に奥まで差し込んでください。
- USBメモリーの端子の部分に触れたり、汚したりしないでください。
- USBメモリーは精密な電子部品で作られています。取り扱いについては次の点に注意してください。
  - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。
  - 端子部に手や金属で触れない。
  - 曲げたり、落したり、強い衝撃を与えたりしない。
  - 直射日光の当たる場所や、閉め切った自動車の中などに放置しない。
  - 水に濡らさない。
  - 分解や改造をしない。

## 知的財産権について

- Roland は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- MIDI は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- 文中記載の会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 本製品は技術的保護手段による制約の一部または全部を受けずに録画、録音あるいは複製を行うことができます。これは本製品が映像制作や音楽制作を目的としており、他者の著作権を侵害しない作品（自作映像作品など）の録画、録音あるいは複製まで、制約を受けることがないよう設計されているためです。
- MMP (Moore Microprocessor Portfolio) はマイクロプロセッサのアーキテクチャーに関する TPL (Technology Properties Limited) 社の特許ポートフォリオです。当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。

# 同梱物を確認する

以下のものが同梱されています。すべてそろっているかご確認ください。同梱物に不足があった場合には、お買い上げ店までご連絡ください。

## V-40HD 本体



## 取扱説明書



## AC アダプターおよび電源ケーブル



## ローランド ユーザー登録カード



## RCA - BNC 変換プラグ (4本)



## 保証書



### 本書掲載のディスプレイ／画面について

本書では、ディスプレイ／画面を使用して機能説明をしていますが、工場出荷時の設定と本文中のディスプレイ／画面上の設定は一致していません。あらかじめご了承ください。

# 目次

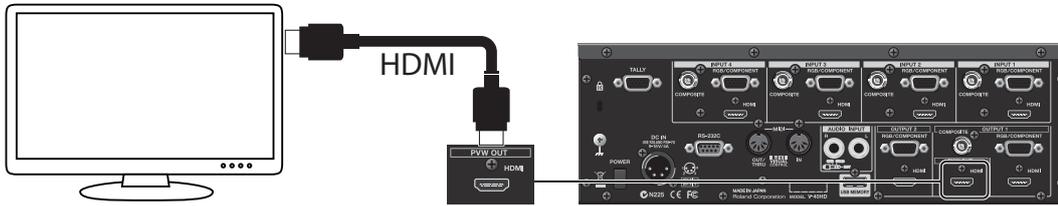
安全上のご注意 .....	3
使用上のご注意 .....	5
同梱物を確認する .....	7
プレビュー・モニターについて .....	10
モニターを接続する .....	10
プレビュー・モニターの表示について .....	10
メニュー表示について .....	11
電源について .....	12
AC アダプターを接続する .....	12
電源を入れる／切る .....	13
各部の名称と機能 .....	14
トップ・パネル .....	14
リア・パネル .....	16
外部機器を接続する .....	17
信号の流れ .....	17
ビデオのソース機器を接続する .....	19
オーディオのソース機器を接続する .....	21
各チャンネルでビデオ・ソースを共有する .....	21
出力機器を接続する .....	22
プロジェクターや録画用の機器を接続する .....	22
タリー対応機器を接続する .....	22
入出力フォーマットについて .....	23
入力可能なフォーマット .....	23
メニューで OUTPUT 1/2 の出力フォーマットを設定する .....	23
ボタン操作で OUTPUT 1/2 の出力フォーマットを切り替える .....	24
各端子から出力可能なフォーマット .....	24
HDCP 信号を入力する .....	25
基本的な操作 .....	27
現在選ばれているチャンネルを確認する .....	27
PGM/PST モードで映像を切り替える .....	27
ボタン操作で切り替える .....	27
ビデオ・フェーダーの操作で映像を切り替える .....	29
A/B モードで切り替える .....	30
操作モードを変える .....	30
A/B モードで切り替える .....	31
最終出力にフェードをかける .....	32

<b>映像を合成する</b> .....	<b>33</b>
ピクチャー・イン・ピクチャーで合成する .....	33
DSK で合成する .....	34
<b>オーディオに関する機能</b> .....	<b>36</b>
オーディオのソースを選ぶ .....	36
オーディオの出力レベルを調整する .....	36
ビデオとオーディオのタイミングを合わせる (リップ・シンク).....	37
ビデオの切り替えにオーディオの出力を連動する (オーディオ・フォロー) .....	37
<b>その他の機能について</b> .....	<b>38</b>
映像を拡大縮小する .....	38
設定を保存する／呼び出す .....	39
USB メモリーを使う .....	40
プレビューのラベルを変える .....	42
工場出荷時の状態に戻す .....	43
<b>メニュー操作とメニューの一覧</b> .....	<b>44</b>
メニュー操作 .....	44
メニューの一覧.....	45
<b>資料</b> .....	<b>51</b>
主な仕様 .....	51
リモート・コントロールについて.....	52
盗難防止用ロックについて .....	52
寸法図.....	52
故障かな?と思ったら .....	53
<b>索引</b> .....	<b>55</b>

# プレビュー・モニターについて

## モニターを接続する

V-40HD を操作するには、モニターを接続する必要があります。PVW OUT 端子に HDMI 入力に対応したモニターを接続してください。



### ご注意!

モニター出力の解像度およびリフレッシュ・レートは、1920×1080/60Hz（プログレッシブ）に固定されています。この解像度／リフレッシュ・レートに対応したモニター機器を接続してください。また、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）信号に対応したモニター機器を接続してください。HDCP 信号に対応していないモニターを接続すると、メニューは表示されますが、映像はすべてブルー画面になります。

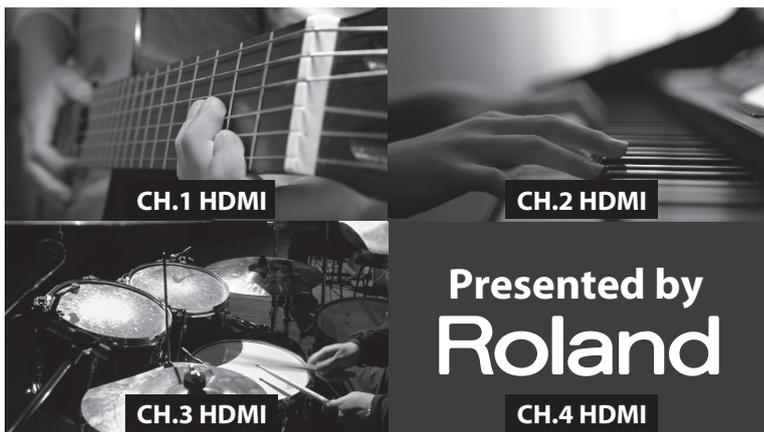
## プレビュー・モニターの表示について

プレビュー・モニターの表示内容は、トップ・パネルの PVW（プレビュー）セレクターで選びます。



表示内容は以下の 4 つから選ぶことができます。

INPUT	入力されるソース映像を 4 分割画面で表示します。（この設定の場合は表示フレーム・レートが下がります）
PST	スタンバイしているチャンネルの映像が表示されます。
PGM	現在出力されているチャンネルの映像が表示されます。
DSK	DSK 合成の状態をプレビュー表示します。このモードで抜け具合の調整を行います。



- [INPUT] を選んでいる場合、プログラム出力されているチャンネルの周囲には、赤い枠が表示されます。スタンバイ中のチャンネルの周囲には、緑色の枠が表示されます。
- プレビュー・モニターには、入力されるソース映像をそのまま表示します。色調整やスケーリングなどの設定は反映されません。

### ご注意!

[INPUT] を選んでいる場合、フレーム・レートが 5fps 程度に下がります。[INPUT] 以外を選んでいる場合は、フレーム・レートが下がることはありません。

また、ソースの信号がインターレースの場合、表示される映像が 1 ライン分上下に動きます。

### メモ

[CH 1] ~ [CH 4] の文字列を任意の文字列に変更することができます。「プレビューのラベルを変える」(P.42) をご参照ください。

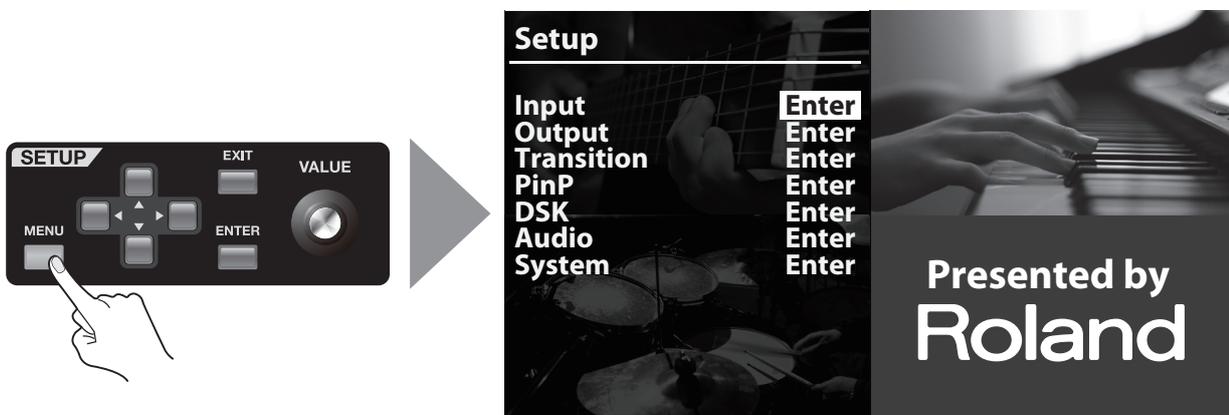
## SD ソースを入力した場合

ソースが SD の場合、画面全体には表示されません。以下のように表示されます。



## メニュー表示について

トップ・パネルの [MENU] ボタンを押すと、プレビュー・モニターにメニューが表示されます。メニュー表示を消すには、トップ・パネルの [EXIT] ボタンまたは [MENU] ボタンを押します。



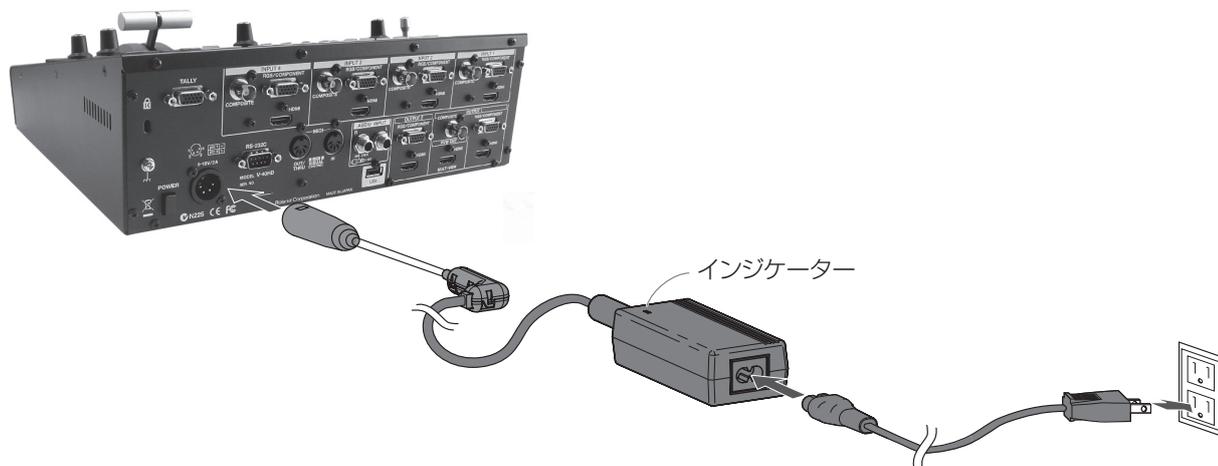
### 参照

メニュー操作およびメニューの各項目については、「メニュー操作とメニューの一覧」(P.44) をご参照ください。

# 電源について

## AC アダプターを接続する

下図のように AC アダプターを接続します。AC アダプターは、インジケータ（図参照）のある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケータが点灯します。



## 電源についてのご注意

設置条件によっては、本機や本機に接続した機器の金属部に触れると、ビリビリとした感じがする場合があります。これは人体にまったく害のない極めて微量の帯電によるものですが、気になる方は接地端子（図参照）を使って外部のアースか大地に接地してお使いください。このとき、わずかにハム（うなり）が混じる場合があります。なお、接続方法がわからないときはローランドお客様相談センターにご相談ください。



### 接続してはいけないところ

- 水道管（感電の原因になります）
- ガス管（爆発や引火の原因になります）
- 電話線のアースや避雷針（落雷のとき危険です）

## 設置上のご注意

V-40HD を設置するときは、通風口をふさいだり、通風口のそばに物を置いたりしないでください。V-40HD 内部の温度が上昇し、熱によって故障する恐れがあります。



## 電源を入れる／切る

正しく接続したら、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

※本機は回路保護のため、電源をオンにしてからしばらくは動作しません。

### 電源を入れる

#### 1. 周辺機器と接続する

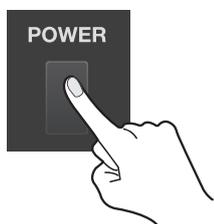
ビデオ・カメラなどの機器と接続します。V-40HD を含め、すべての機器の電源を切った状態で接続してください。

#### 2. V-40HD の電源を入れる

電源ケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認し、リア・パネルの [POWER] ボタンを押します。トップ・パネルのボタンやインジケーターが点滅し、V-40HD が起動します。

##### メモ

V-40HD の起動時には、バンク 1 のメモリー番号 1 (P.39) に保存してあった設定が読み込まれた状態になっています。



#### 3. ソース機器の電源を入れる

ビデオ・カメラなど、V-40HD に接続したソース機器の電源を入れます。

#### 4. 出力機器の電源を入れる

プロジェクターなど、V-40HD に接続した出力機器の電源を入れます。

### 電源を切る

#### 1. 出力機器の電源を切る

プロジェクターなど、V-40HD に接続した出力機器の電源を切ります。

#### 2. V-40HD の電源を切る

リア・パネルにある [POWER] スイッチを OFF にし、V-40HD の電源を切ります。

#### 3. ソース機器の電源を切る

ビデオ・カメラなど、V-40HD に接続したソース機器の電源を切ります。

##### ご注意!

プレビュー・モニターのメニュー表示部に「Processing...」などのメッセージが表示されている間は電源を切らないでください。設定内容の保存に失敗する可能性があります。

### AUTO OFF について

以下のすべての状態が 240 分以上続いた場合、AUTO OFF 機能がはたらき、V-40HD の電源が自動的に切れます。

- 本体の操作が行われない。(リモート・コントロールによる操作も含む)
- ビデオの入力がない。
- -48dBu 以上のオーディオの入力がない。

##### ご注意!

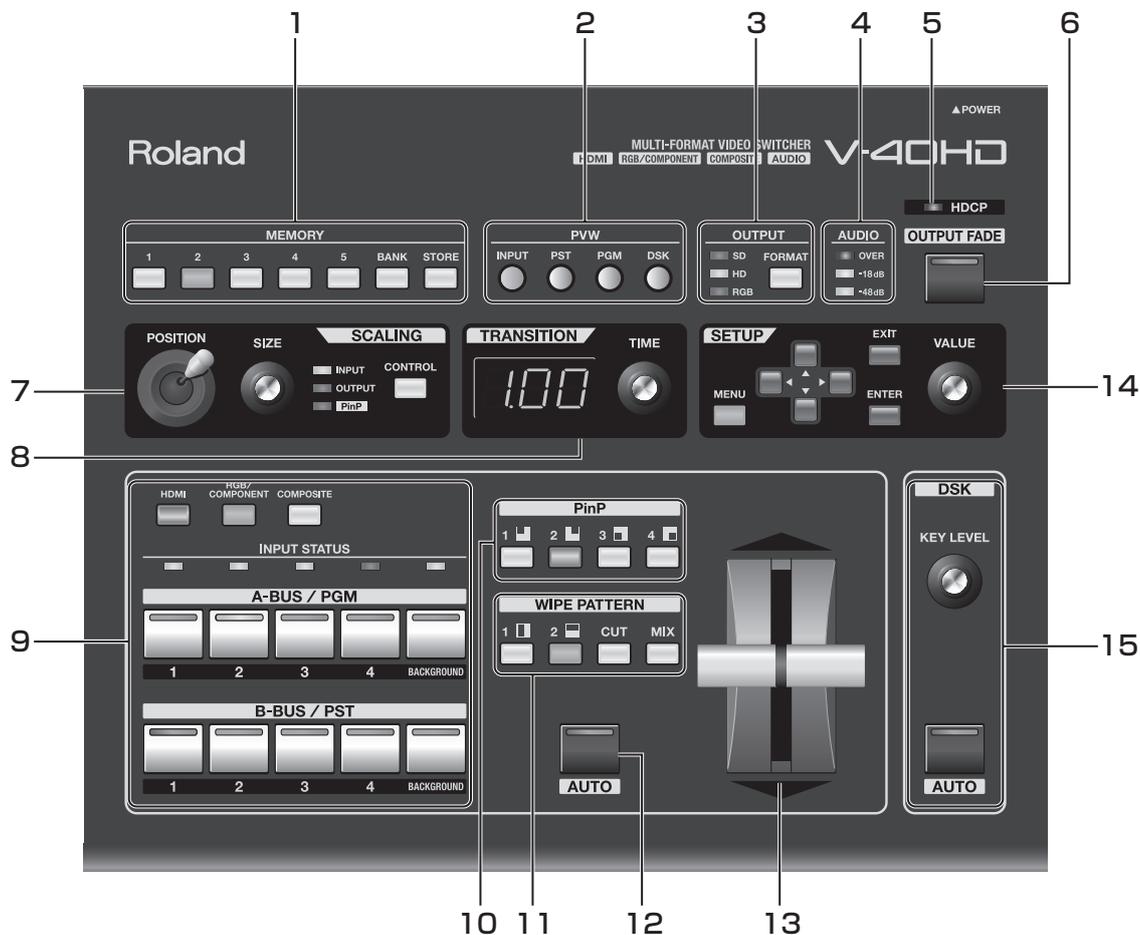
電源が切れると編集集中の設定は失われます。残しておきたい設定はあらかじめ保存しておいてください。

##### メモ

System メニューの [AUTO OFF] を [OFF] にすると、AUTO OFF 機能がはたらかないように設定できます。「メニュー操作」(P.44) および「SYSTEM メニュー」(P.49) をご参照ください。

# 各部の名称と機能

## トップ・パネル



### 1. MEMORY ボタン

現在の設定を記憶します。また、記憶してあった設定を呼び出します。(P.39)

### 2. PVW (プレビュー) セレクター

リア・パネルの [PVW OUT] 端子から出力する映像を選びます。

### 3. OUTPUT セレクター

[FORMAT] ボタンで OUTPUT 1/2 の出力フォーマットを切り替えることができます。

※PVW OUT のフォーマットは切り替わりません。

### 4. AUDIO インジケーター

オーディオの出力レベルを表示します。

### 5. HDCP インジケーター

HDCP 信号に関する設定 (P.25) により、以下のように動作します。

- ・点灯 出力先の機器として、HDCP 信号対応の機器が接続されている場合。
- ・点滅 出力先の機器が接続されていない場合や、HDCP に非対応の機器が接続されている場合。
- ・消灯 V-40HD の HDCP 信号入出力モードがオフになっている場合。

### 6. OUTPUT FADE ボタン

最終出力にフェードをかけます。フェード中はボタンが点滅します。完全にフェード・アウトするとボタンが点灯し、完全にフェード・インするとボタンが消灯します。(P.32)

※工場出荷時の設定では、0.5 秒で黒にフェードします。メニュー操作 (P.44) により、フェード時間とフェード色を変えることができます。

## 7. SCALING セクション

画面の拡大／縮小や表示位置の調整を行います。ピクチャー・イン・ピクチャーをかけている場合は、子画面の大きさ／表示位置の調整を行います。

## 8. TRANSITION ダイヤルおよびインジケータ

ダイヤル操作で切替時間（トランジション・タイム）を調整します。

※工場出荷時の設定では秒単位で表示されます。メニュー操作（P.44）により、他の単位（フレーム、秒＋フレーム）を選ぶことができます。

## 9. インプット・セレクター

A-BUS/PGM 側と B-BUS/PST 側に各 5 個のボタンがあり、出力映像とスタンバイ映像を選びます。

A-BUS/PGM	PGM/PST モード（P.27）で切り替える場合、現在出力しているチャンネルのボタンが赤く点灯します。 A/B モード（P.30）で切り替える場合、A バスのチャンネルを選びます。
B-BUS/PST	PGM/PST モードで切り替える場合、次に出力したい（スタンバイさせる）チャンネルを選びます。 A/B モードで切り替える場合、B バスのチャンネルを選びます。

HDMI、RGB/COMPONENT および COMPOSITE ボタンの操作により、各チャンネルにソースの割り当て（P.18）を行うことができます。これらのボタンの点灯色および消灯は以下のように切り替わります。

赤	工場出荷時の状態。出力されている側の 1～4 を押してからソース割り当てを行うモードになっています。
緑	スタンバイ側の 1～4 を押してからソース割り当てを行うモードになっています。
オレンジ	ソース共有（P.21）を行っている場合にオレンジに点灯します。
消灯	HDMI、RGB/COMPONENT および COMPOSITE ボタンでのソース割り当てができないモードです。

[INPUT STATUS] インジケータは、割り当てと入力一致した場合に点灯します。割り当てと入力異なる場合は点灯しません。

## 10. PinP セレクター

1～4 のどれかのボタンを押すと、ピクチャー・イン・ピクチャーがかかります。

## 11. WIPE PATTERN セレクター

映像を切り替えるときの効果を選びます。

※メニュー操作により、WIPE 1/2 のボタンに他のワイプ・パターンを割り当てすることもできます。

## 12. AUTO ボタン

現在スタンバイしているチャンネルを出力します。[TRANSITION] ダイヤルで設定している時間に従い、[WIPE PATTERN] ボタンで選んでいる効果がかかります。

## 13. ビデオ・フェーダー

手動操作で切り替えるときに使います。手動で切り替える場合、[TRANSITION] ダイヤルの設定に関わらず、ビデオ・フェーダーの動かし方によって効果のかかり方が変わります。

## 14. SETUP セクション

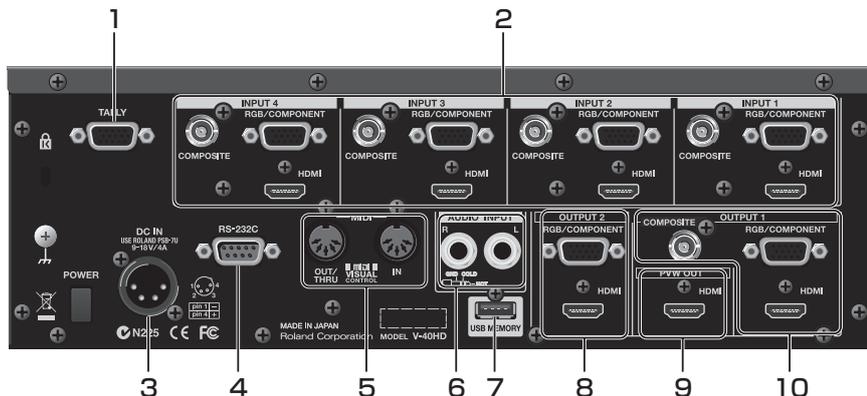
メニュー画面を表示して V-40HD の設定を変えるときに使います。（P.44）

## 15. DSK セクション

DSK 合成を行うとき、このセクションの [AUTO] ボタンを押すことで DSK のソース（前面の映像）を出したり消したりします。また、[KEY LEVEL] ダイヤルを回すことで抜け具合を調整します。（P.35）

※工場出荷時の設定では、黒の背景が抜けます。メニュー操作（P.44）により、設定を変えることができます。

## リア・パネル



### 1. TALLY 端子

タリー表示機能を備えた機器を接続します。(P.22)

### 2. INPUT 端子 1 ~ 4

ビデオのソース機器を接続します。1 ~ 4 のそれぞれに以下の接続端子があり、ボタンおよびメニュー操作で有効な端子を選びます。

※工場出荷時の設定では、各チャンネルとも HDMI 入力が無効になっています。

- COMPOSITE  
ビデオ・カメラや DVD プレイヤーなどのコンポジット出力を接続します。
- RGB/COMPONENT  
パソコンなどのアナログ RGB 出力を接続します。コンポーネントから 15 ピン・ミニ D-sub タイプへの変換ケーブルを使うと、Y/Pb/Pr のコンポーネント出力を持つ機器を接続することもできます。
- HDMI  
ビデオ・カメラなどの HDMI 出力を接続します。BD プレイヤーなど、HDCP のかかった信号を出力する機器を接続する場合は、「HDCP 信号を入力する」(P.25) をご参照ください。

### 3. DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。(P.12)

### 4. RS-232C 端子

外部機器からのリモート・コントロールを受ける場合に使用します。

「リモート・コントロールについて」(P.52) をご参照ください。

### 5. MIDI 端子

MIDI 機器 (MIDI VISUAL CONTROL 対応機器など) からのリモート・コントロールを受ける場合や、他の機器のリモート・コントロールを行う場合に使用します。

「リモート・コントロールについて」(P.52) をご参照ください。

### 6. AUDIO INPUT 端子

V-40HD では、HDMI 端子からビデオとオーディオを一緒に出力することができます。この端子には、アナログ・オーディオのソース機器を接続します。

### 7. USB MEMORY 端子

USB メモリーを接続し、内蔵メモリーの保存内容をコピーする場合に使います。

※本体の電源を入れたまま、USB メモリーの抜き差しをしないでください。本体や USB メモリー内のデータが失われる可能性があります。

※USB メモリーは挿入方向や表裏に注意して、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。

### 8. OUTPUT 2 端子

プロジェクターや録画用の機器などを接続します。RGB/COMPONENT と HDMI の出力端子があります。

### 9. PVW OUT 端子

プレビュー出力用のモニターを接続します。(P.10)

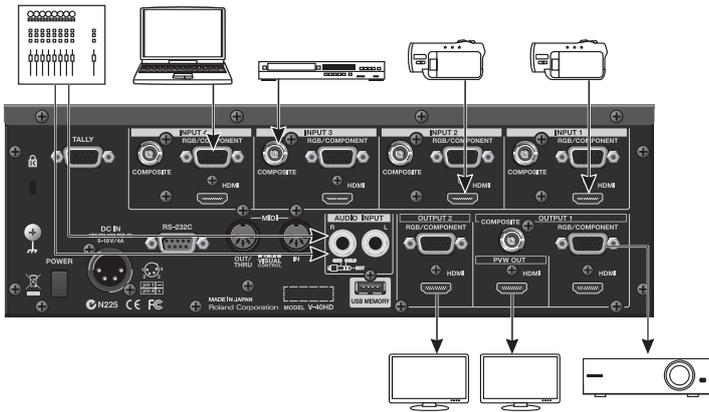
### 10. OUTPUT 1 端子

プロジェクターや録画用の機器などを接続します。RGB/COMPONENT と HDMI のほか、COMPOSITE の出力端子もあります。

# 外部機器を接続する

以下のように外部機器を接続します。具体的な接続方法については、次ページ以降をご参照ください。

※他の機器と接続するときは、誤動作やテレビ・モニターなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。

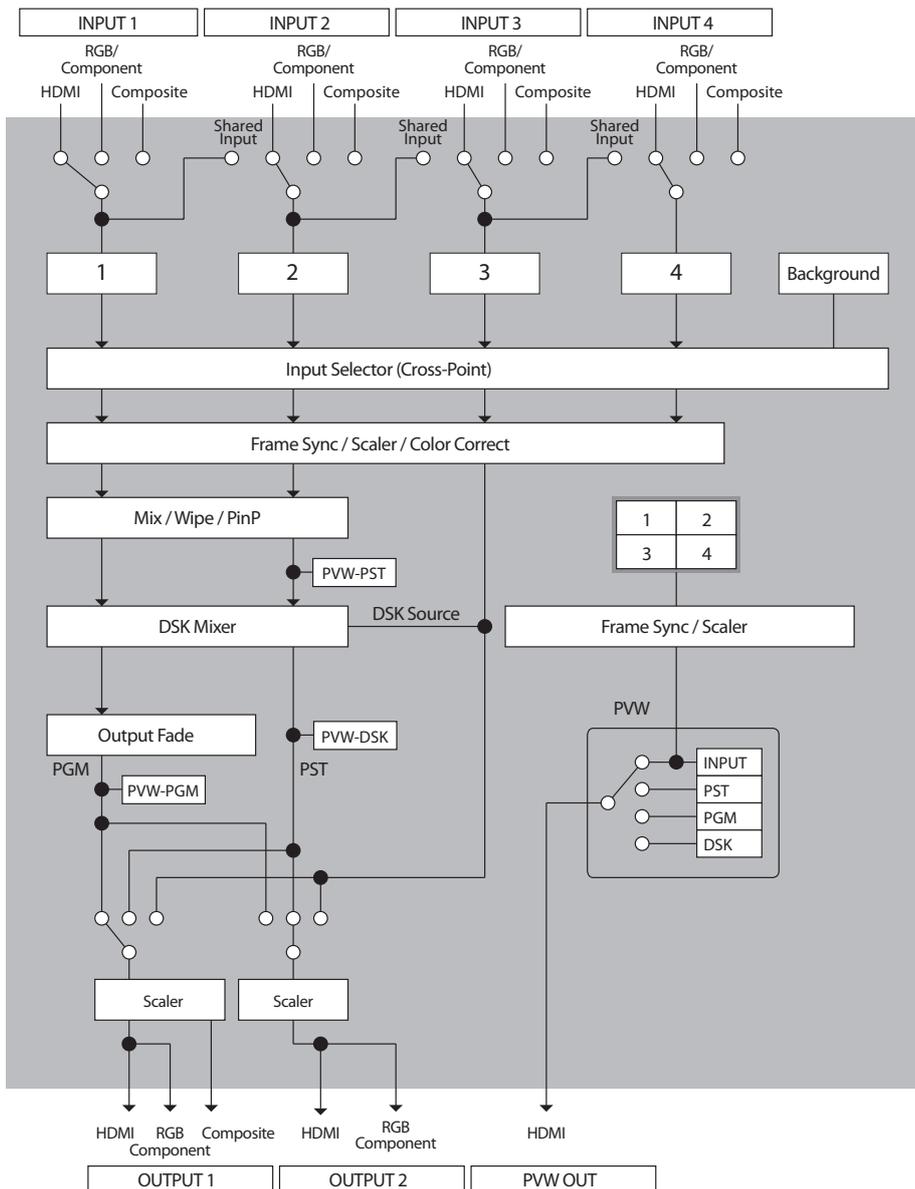


入出力可能な信号フォーマットについては、「入出力フォーマットについて」(P.23)をご参照ください。

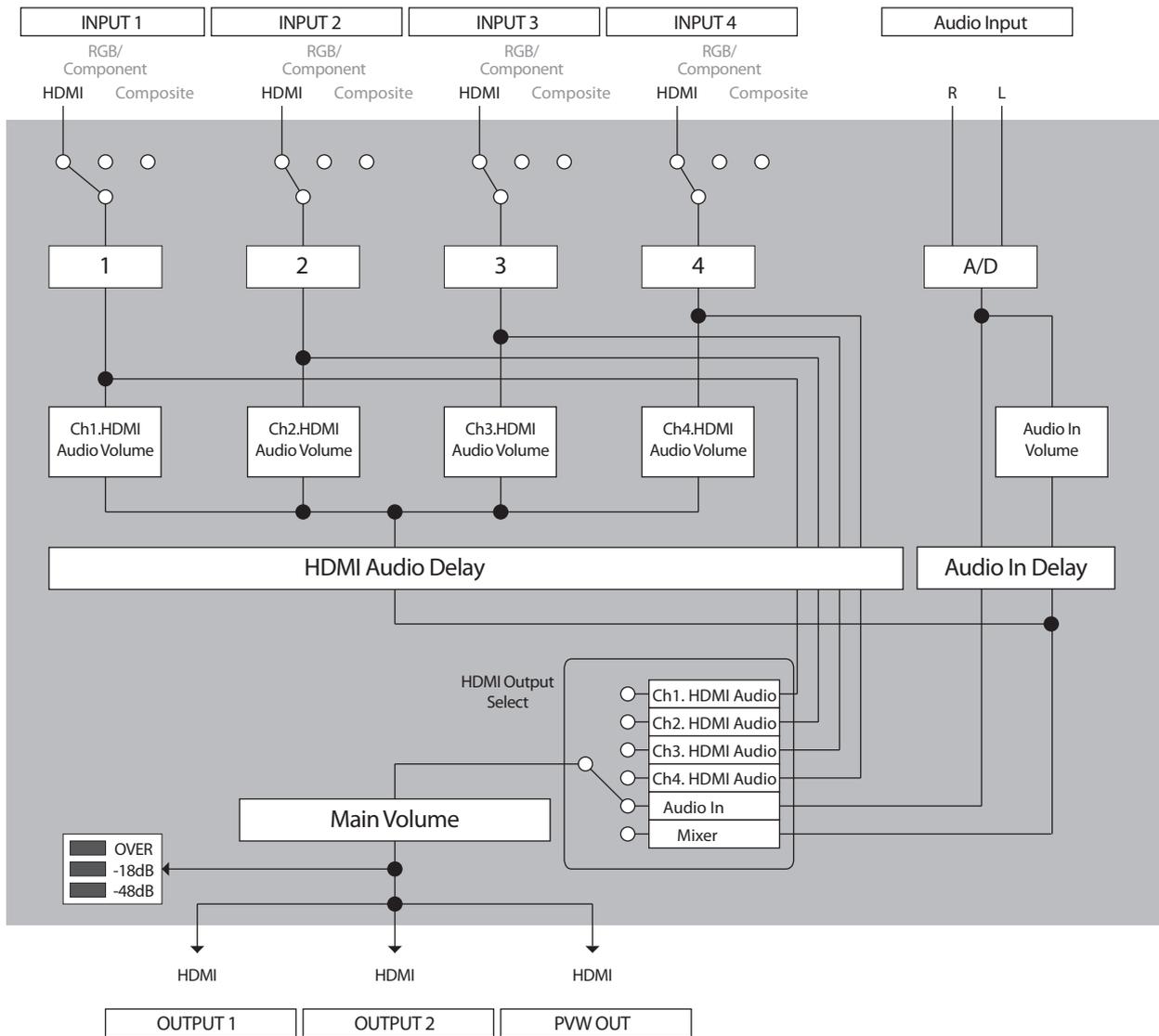
## 信号の流れ

V-40HD の内部では、以下のように信号が流れます。

### ビデオ信号



オーディオ信号



※HDMI のオーディオを入力する場合は、各チャンネルに HDMI 入力を割り当ててください。

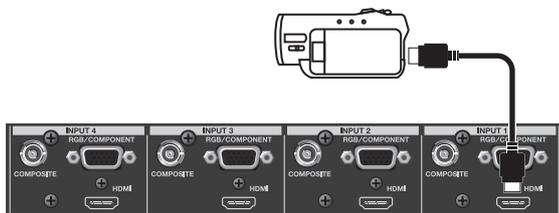
## ビデオのソース機器を接続する

### メモ

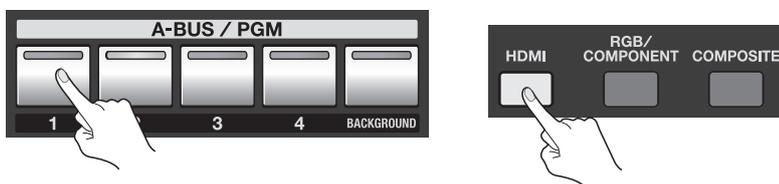
各チャンネルへのソースの割り当ては、以下のようなボタン操作ではなくメニューから行うこともできます。Input メニュー (P.45) で [Ch.1] ~ [Ch.4] を選び、それぞれに割り当てるソースを選びます。

### HDMI で接続する

INPUT 1 ~ 4 の HDMI 端子にビデオ・カメラなど、HDMI 出力を持つ機器を接続します。



1 チャンネルに HDMI 入力を割り当てる場合は、[A-BUS/PGM] の [1] を押してから [HDMI] ボタンを押してください。V-40HD が HDMI 入力を認識すると、1 チャンネルの [INPUT STATUS] インジケータが点灯します。

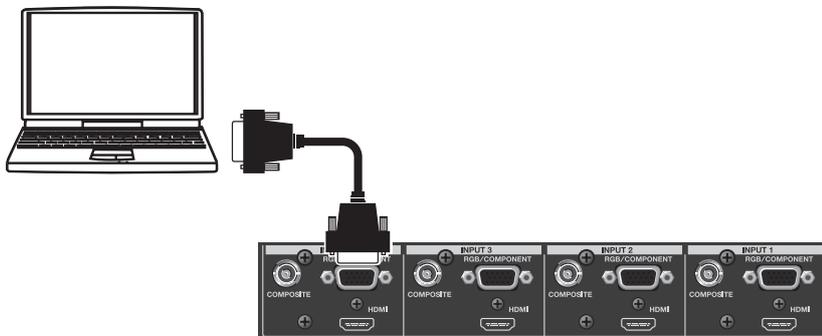


### メモ

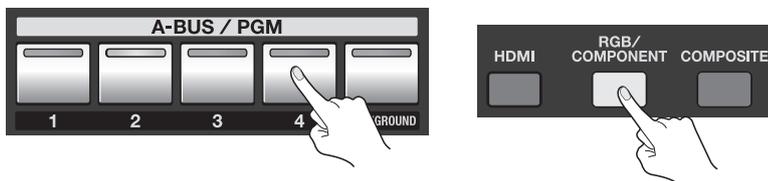
DVI 出力を持つ機器を接続する場合は、DVI から HDMI への変換ケーブルを使って、INPUT 1 ~ 4 の HDMI 端子に接続します。

### RGB で接続する

INPUT 1 ~ 4 の RGB/COMPONENT 端子にパソコンなどの RGB 出力を持つ機器を接続します。

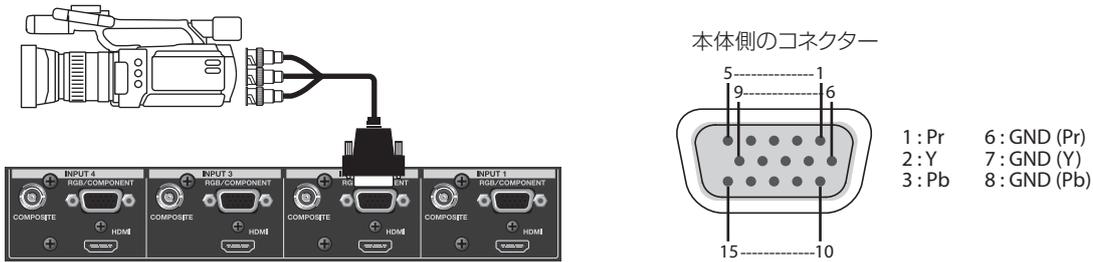


4 チャンネルに RGB 入力を割り当てる場合は、[A-BUS/PGM] の [4] を押してから [RGB/COMPONENT] ボタンを押してください。V-40HD が RGB 入力を認識すると、4 チャンネルの [INPUT STATUS] インジケータが点灯します。

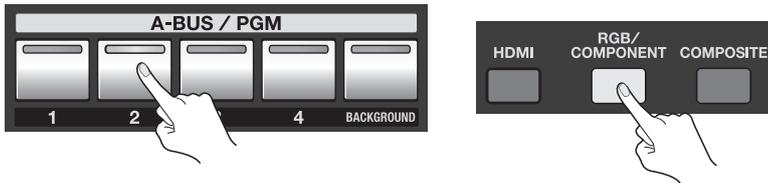


### コンポーネントで接続する

INPUT 1～4のRGB/COMPONENT端子にビデオ・カメラなど、コンポーネント出力を持つ機器を接続します。このとき、コンポーネントから15ピン・ミニD-subタイプへの変換ケーブルを使用します。



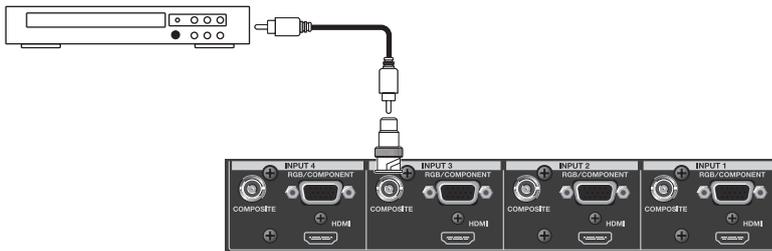
2チャンネルにコンポーネント入力を割り当てる場合は、[A-BUS/PGM]の[2]を押してから[RGB/COMPONENT]ボタンを押してください。V-40HDがコンポーネント入力を認識すると、2チャンネルの[INPUT STATUS]インジケータが点灯します。



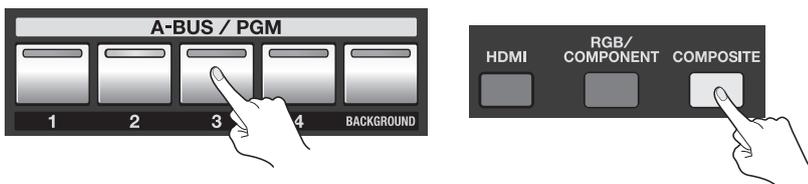
### コンポジットで接続する

INPUT 1～4のCOMPOSITE端子にビデオ・カメラやDVDプレイヤーなど、コンポジット出力を持つ機器を接続します。

※RCAピン・タイプの出力端子を持つ機器を接続する場合は、BNCタイプへの変換プラグ(付属)を使用してください。



3チャンネルにコンポジット入力を割り当てる場合は、[A-BUS/PGM]の[3]を押してから[COMPOSITE]ボタンを押してください。V-40HDがコンポジット入力を認識すると、3チャンネルの[INPUT STATUS]インジケータが点灯します。



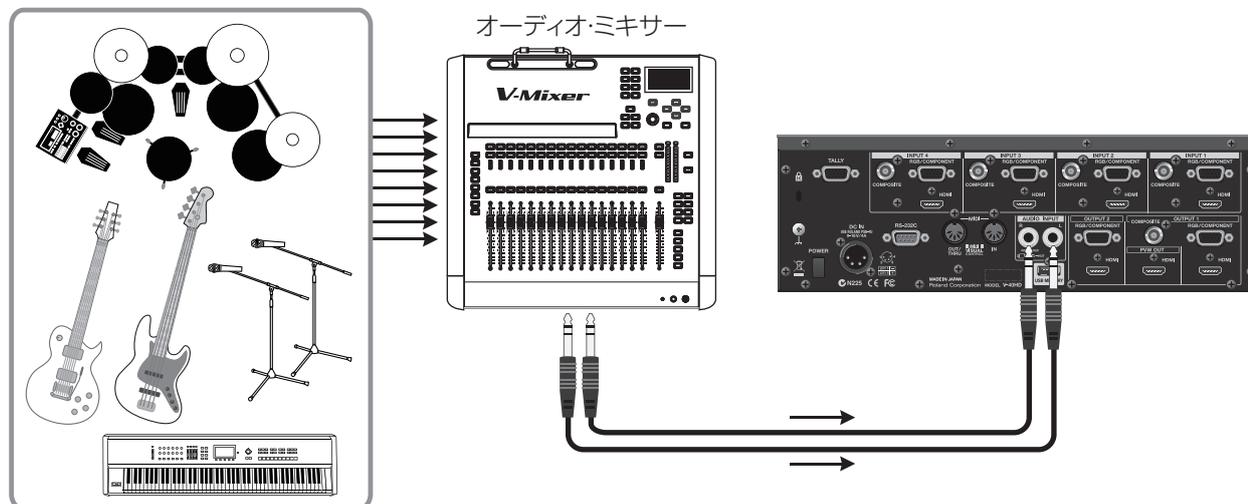
#### メモ

工場出荷時の設定では、現在出力されているバスの[1]～[4]で入力ソースの割り当て操作を行います。モードを切り替えることにより、スタンバイ側で操作を行うようにすることができます。また、[HDMI]ボタン/[RGB/COMPONENT]ボタン/[COMPOSITE]ボタンの操作を無効(OFF)にすることもできます。Systemメニュー(P.49)の[Source Assign Mode]で切り替えてください。

## オーディオのソース機器を接続する

AUDIO INPUT 端子にオーディオ・ミキサーなどのオーディオ・ソースを接続することができます。この端子への入力、V-40HD のビデオ・ミックスの結果と一緒に OUTPUT 1/2 および PVW OUT の HDMI 端子から出力されます。

※抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、[AUDIO INPUT] 端子に接続した機器の音量が小さくなることがあります。抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。



## メモ

本機はバランス (TRS) タイプの端子を装備しており、次のように配線されています。接続する機器の配線をご確認のうえ、接続してください。



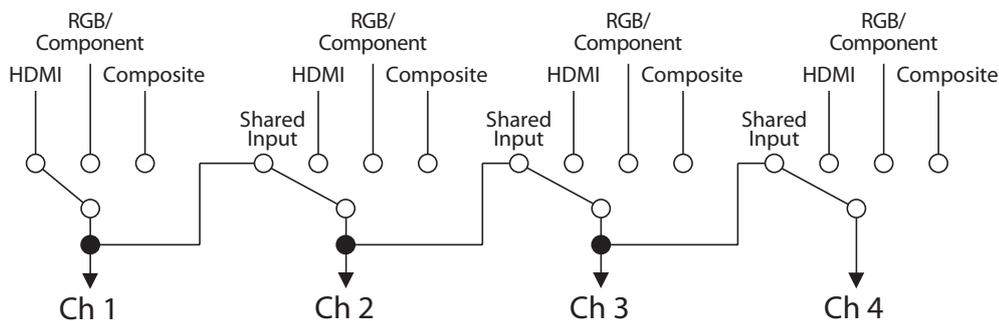
## メモ

メニュー操作により、オーディオのレベルを調整 (P.36) したり、タイミングを遅らせてビデオと合わせる (P.37) ことができます。

## 各チャンネルでビデオ・ソースを共有する

1 ~ 4 チャンネルは、ソースを共有することができます。この機能を使うと、1 チャンネルの映像を 2 ~ 4 チャンネルに割り振ることができます。共有すると、ひとつのソースが複数の入力チャンネルに割り当てられます。共有するには、Input メニュー (P.45) の入力フォーマット表示部分で [Shared Input] を選びます。

※各チャンネルで共有を行えるのは、ひとつ前のチャンネルのソースです。つまり、1 チャンネルのソースを 2 ~ 4 チャンネルで共有する場合、2 ~ 4 の各チャンネルに対して [Shared Input] を選ぶ必要があります。



## ご注意!

オーディオ・ソースの共有はできません。

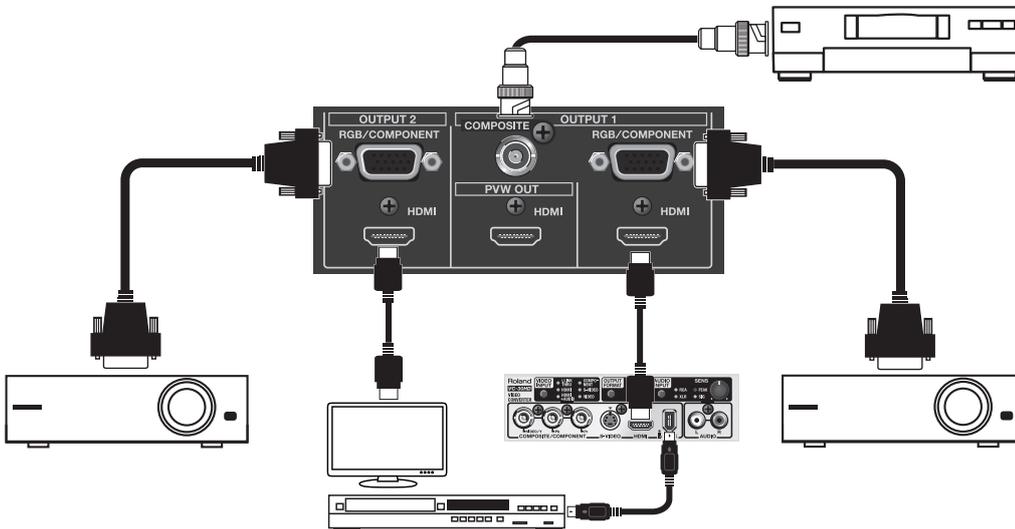
## 出力機器を接続する

V-40HD から出力できる信号フォーマットについては、「入出力フォーマットについて」(P.23) をご参照ください。

## プロジェクターや録画用の機器を接続する

出力先の機器の入力端子にあわせ、OUTPUT 1/2 の端子に接続します。

※OUTPUT 1 と 2 の出力フォーマットは共通です。



### ヒント

VC-30HD を経由して HDMI 出力を HDD レコーダーや BD レコーダーなどの i.LINK 入力に接続することができます。

### メモ

OUTPUT 1 と 2 では、出力するバスを個別に選ぶことができます。「Output メニュー」(P.46) をご参照ください。

### ご注意

- OUTPUT 1/2 の HDMI 端子または PVW OUT 端子に HDMI 出力の機器を接続すると、本体の電源が入らないことがあります。
- HDCP が ON になっている (P.25) 場合、HDMI 端子からのみの出力となります。他の端子からの出力は止まります。

## タリー対応機器を接続する

V-40HD には、D-Sub 15 ピンの TALLY 端子が装備されています。タリー入力のあるテレビ・モニターと接続すると、モニターのタリー・ランプを点灯させることができます。チャンネル選択の状況により、ランプが点灯/消灯するため、現在使用中のチャンネルをモニターで確認することができます。

V-40HD の TALLY 端子の仕様は以下のとおりです。

- 15 ピン・ミニ D-sub タイプ
- 最大入力：12V/200mA
- オープン・コレクター・タイプ

V-40HD の TALLY 端子には、以下のチャンネルが割り当てられています。

本体側のコネクター

ピン番号	チャンネル
1	PGM Ch.1
2	PST Ch.1
3	NC
4	GND
5	PGM Ch.4
6	PGM Ch.2
7	PST Ch.2
8	NC
9	GND
10	PST Ch.4
11	PGM Ch.3
12	PST Ch.3
13	NC
14	GND
15	NC

# 入出力フォーマットについて

## 入力可能なフォーマット

V-40HD の INPUT 1 ～ 4 には異なるフォーマットの信号を入力することができます。

INPUT 1 ～ 4 の各端子には、以下のフォーマットの信号を入力することができます。入力フォーマットは自動的に識別されます。

Frame Rate	59.94Hz	50Hz
COMPOSITE	NTSC	PAL
COMPONENT	480/59.94i, 480/59.94p, 720/59.94p, 1080/59.94i, 1080/59.94p	576/50i, 576/50p, 720/50p, 1080/50i, 1080/50p
RGB	640 × 480/60Hz, 800 × 600/60Hz, 1024 × 768/60Hz, 1280 × 768/60Hz, 1280 × 1024/60Hz, 1366 × 768/60Hz, 1400 × 1050/60Hz, 1600 × 1200/60Hz, 1920 × 1080/60Hz, 1920 × 1200/60Hz (Reduced Blanking)	
HDMI	480/59.94i, 480/59.94p, 720/59.94p, 1080/59.94i, 1080/59.94p	576/50i, 576/50p, 720/50p, 1080/50i, 1080/50p
	640 × 480/60Hz, 800 × 600/60Hz, 1024 × 768/60Hz, 1280 × 768/60Hz, 1280 × 1024/60Hz, 1366 × 768/60Hz, 1400 × 1050/60Hz, 1600 × 1200/60Hz, 1920 × 1080/60Hz, 1920 × 1200/60Hz (Reduced Blanking)	

※HDMI 音声の入力フォーマットはリニア PCM、24 ビット / 48kHz、2ch です。

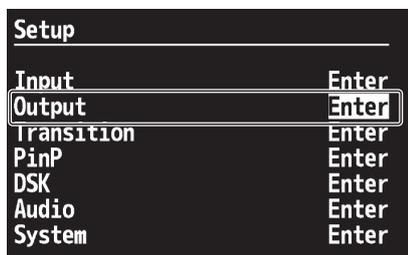
## メニューで OUTPUT 1/2 の出力フォーマットを設定する

メニュー操作で OUTPUT 1/2 の出力フォーマットを設定することができます。

※OUTPUT 1 の COMPOSITE 端子から出力できるフォーマットは NTSC または PAL です。OUTPUT 1 と 2 の RGB/COMPONENT 端子および HDMI 端子からの出力フォーマットは共通になります。

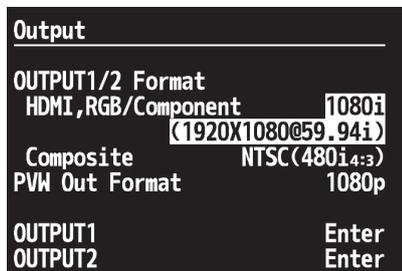
### 1. Output メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [Output] を選び、[ENTER] ボタンを押して Output メニューを開きます。



### 2. 出力フォーマットを設定する

[VALUE] ダイヤルを回して出力フォーマットを設定します。



#### メモ

OUTPUT 1/2 に対し、個別の各種設定を行うことができます。Output メニュー (P.46) をご参照ください。

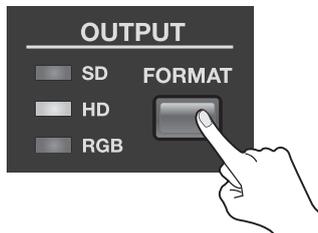
#### ご注意!

以下の出力フォーマット選んだ場合、RGB/COMPONENT 端子からは出力されなくなります。

- 480/59.94i (NTSC)
- 576/50i (PAL)
- 1080/59.94i
- 1080/50i

## ボタン操作で OUTPUT 1/2 の出力フォーマットを切り替える

トップ・パネルの OUTPUT セレクターで出力フォーマットを切り替えることができます。[FORMAT] ボタンを押し、点灯しているインジケータを切り替えます。



工場出荷時の設定では以下の信号が出力されます。前項の設定によって、出力される信号フォーマットが変わります。

Frame Rate	59.94Hz	50Hz
SD	NTSC	PAL
HD	1080/59.94i	1080/50i
RGB	1024 × 768/60Hz	1024 × 768/75Hz

## 各端子から出力可能なフォーマット

V-40HD の各出力端子からは、以下のフォーマットで出力することができます。Output メニュー (P.46) をご参照ください。

### OUTPUT 1/2

Frame Rate	59.94Hz	50Hz
COMPOSITE (* 1) (* 2)	NTSC	PAL
COMPONENT (* 2)	480/59.94p, 720/59.94p, 1080/59.94p	576/50p, 720/50p, 1080/50p
RGB (* 2)	640 × 480/60Hz, 800 × 600/60Hz, 1024 × 768/60Hz, 1280 × 768/60Hz, 1280 × 1024/60Hz, 1366 × 768/60Hz, 1400 × 1050/60Hz, 1600 × 1200/60Hz, 1920 × 1200/60Hz (Reduced Blanking)	640 × 480/75Hz, 800 × 600/75Hz, 1024 × 768/75Hz, 1280 × 768/75Hz, 1280 × 1024/75Hz, 1366 × 768/75Hz, 1400 × 1050/75Hz, 1600 × 1200/60Hz, 1920 × 1200/60Hz (Reduced Blanking)
HDMI	480/59.94i, 480/59.94p, 720/59.94p, 1080/59.94i, 1080/59.94p	576/50i, 576/50p, 720/50p, 1080/50i, 1080/50p
	640 × 480/60Hz, 800 × 600/60Hz, 1024 × 768/60Hz, 1280 × 768/60Hz, 1280 × 1024/60Hz, 1366 × 768/60Hz, 1400 × 1050/60Hz, 1600 × 1200/60Hz, 1920 × 1200/60Hz (Reduced Blanking)	640 × 480/75Hz, 800 × 600/75Hz, 1024 × 768/75Hz, 1280 × 768/75Hz, 1280 × 1024/75Hz, 1366 × 768/75Hz, 1400 × 1050/75Hz, 1600 × 1200/60Hz, 1920 × 1200/60Hz (Reduced Blanking)

\* 1 : OUTPUT 1 のみ

\* 2 : HDCP がオンのとき (P.25) は出力されません。

### PVW OUT

Frame Rate	59.94Hz	50Hz
HDMI	1920 × 1080/60Hz	

※OUTPUT 1/2 および PVW OUT の HDMI 音声の出力フォーマットはリニア PCM、24ビット / 48kHz、2ch です。

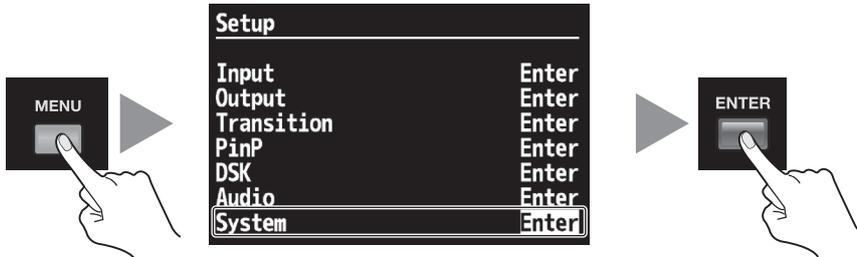
# HDCP 信号を入力する

工場出荷時の設定では、V-40HDのHDCP(High-bandwidth Digital Content Protection)設定はオフになっています。したがって、BD プレイヤーなどから HDCP のかかった信号を入力することができません。HDCP のかかった信号を入力する場合は、以下の手順に従って設定を変更してください。

※HDCP とは、ビデオの再生機器からディスプレイなどの表示機器にデジタル信号を送る際、その経路を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止するための著作権保護技術です。

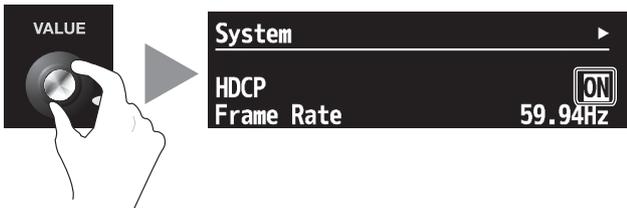
## 1. SYSTEM メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを操作して [System] を選び、[ENTER] ボタンを押して System メニューを開きます。



## 2. 設定を変える

[CURSOR] ボタンを押して [HDCP] を選びます。[VALUE] ダイアルを回して [OFF] から [ON] に切り替えます。確認画面が表示されますので、[ENTER] ボタンを押します。

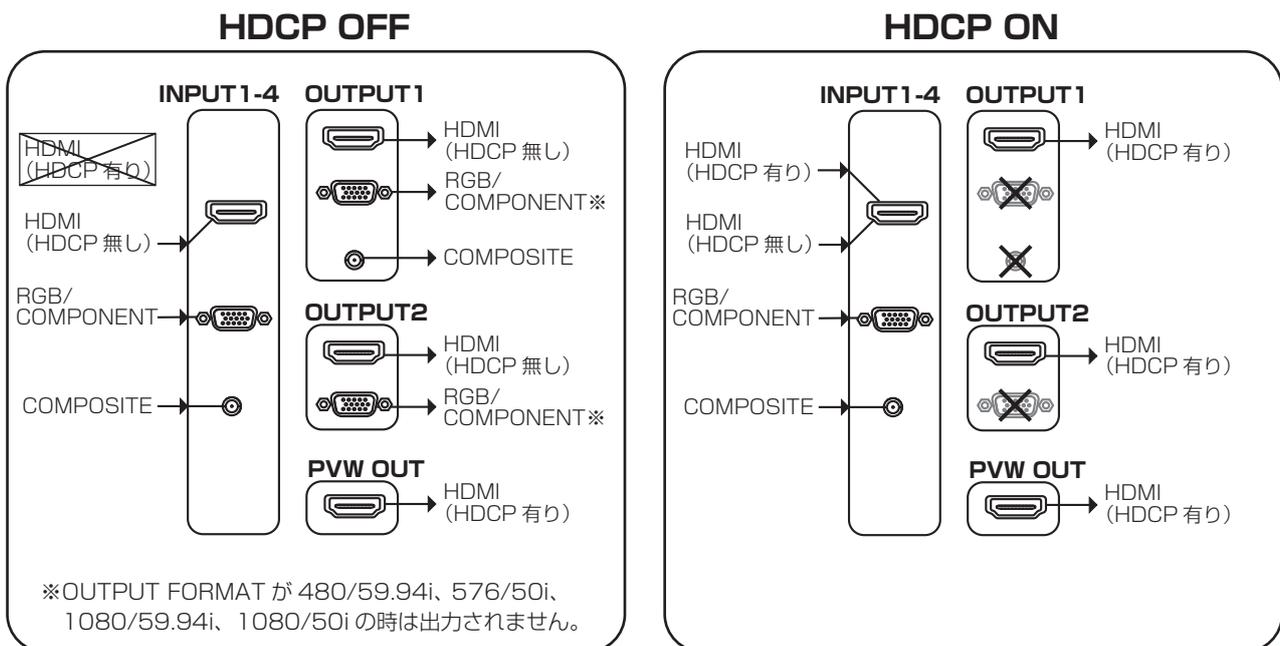


## 3. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

### ご注意!

上記の設定変更を行った場合、OUTPUT 1/2 の COMPOSITE 端子、RGB/COMPONENT 端子からは出力されなくなります。ただし、HDMI 端子からは HDCP がかかった信号が出力されます。



## HDCP 信号を入力する

### HDCP インジケータについて

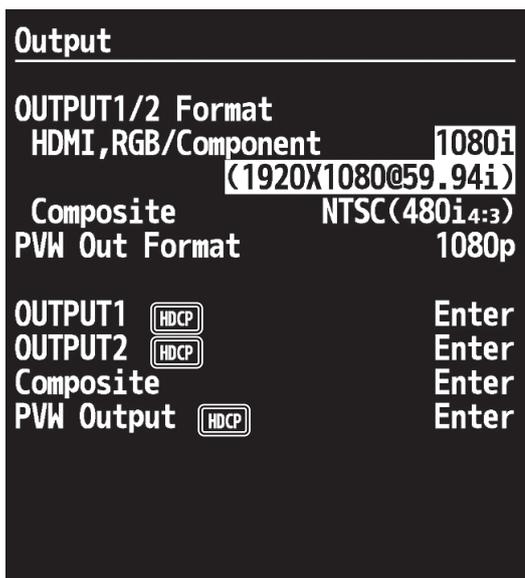
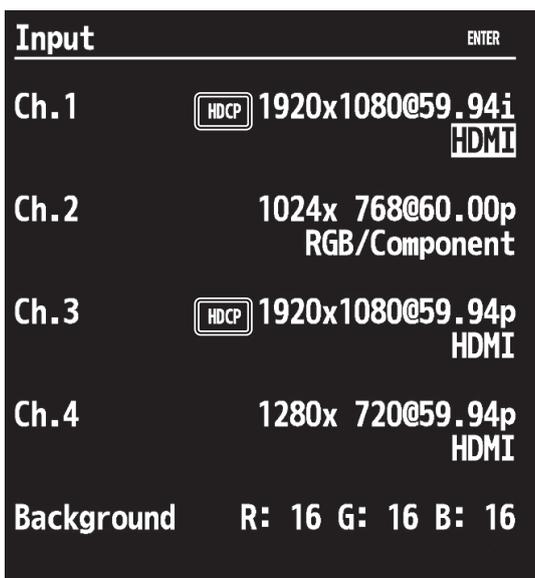
トップ・パネルの [HDCP] インジケータは以下のように動作します。

点灯	HDCP 設定をオンにして OUTPUT 1/2 および PVW OUT のいずれかの HDMI 端子に HDCP 対応機器を接続している。
点滅	HDCP 設定オンにしたが、OUTPUT 1/2 および PVW OUT のどの HDMI 端子にも HDCP 対応機器を接続していない。または、接続された機器のどれかが HDCP に対応していない。
消灯	HDCP 設定オフ。

※上記動作は入力に関係なく行われます。

### HDCP 対応機器の確認について

ソース機器／出力先の機器に関する HDCP 対応状況を見ることができます。Input メニューまたは Output メニューで以下のように表示されます。



# 基本的な操作



本機を使用すると、極めて速いスピードで映像切り替えが可能です。そのような映像を見ると、体調によっては頭痛をもよおしたり気分が悪くなったりする可能性があります。本機を用いてこのような健康を害する恐れのある映像を制作／上映しないでください。あなた自身もしくはほかの視聴者の健康が害されても、弊社は一切の責任を負いません。

## 現在選ばれているチャンネルを確認する

切替操作を行う前に、現在選ばれているチャンネルを確認します。V-40HDの電源を入れた直後には、MEMORYの1-1(バンク1の1番)が選ばれています。1-1に保存されているパネルの状態でチャンネルが選ばれています。

※MEMORYボタンへの保存については「設定を保存する／呼び出す」(P.39)をご参照ください。

プレビュー・モニターの[INPUT]モードでは、現在出力されている映像の周囲に赤い枠が、スタンバイされている映像の周囲に緑の枠が表示されます。

インプット・セレクターの[A-BUS/PGM]では、現在出力されているチャンネルのボタンが赤く点灯します。[B-BUS/PST]では、現在スタンバイされているチャンネルのボタンが緑に点灯します。



## PGM/PST モードで映像を切り替える

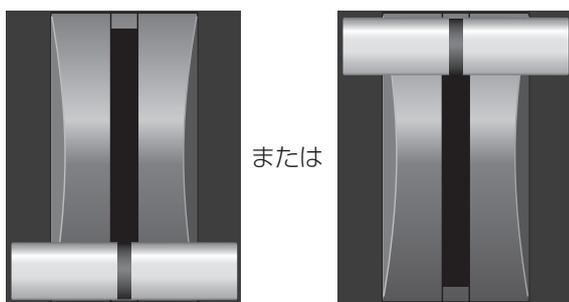
工場出荷時の設定では、V-40HDの操作モードはPGM/PSTモードになっています。他にA/Bモード(P.30)を選ぶこともできます。

### ボタン操作で切り替える

[AUTO] ボタンの操作で映像を切り替えます。[TRANSITION] で設定した時間に従い、[WIPE PATTERN] ボタンで選んだ効果がかかります。

#### 1. ビデオ・フェーダーをいっぱいに倒す

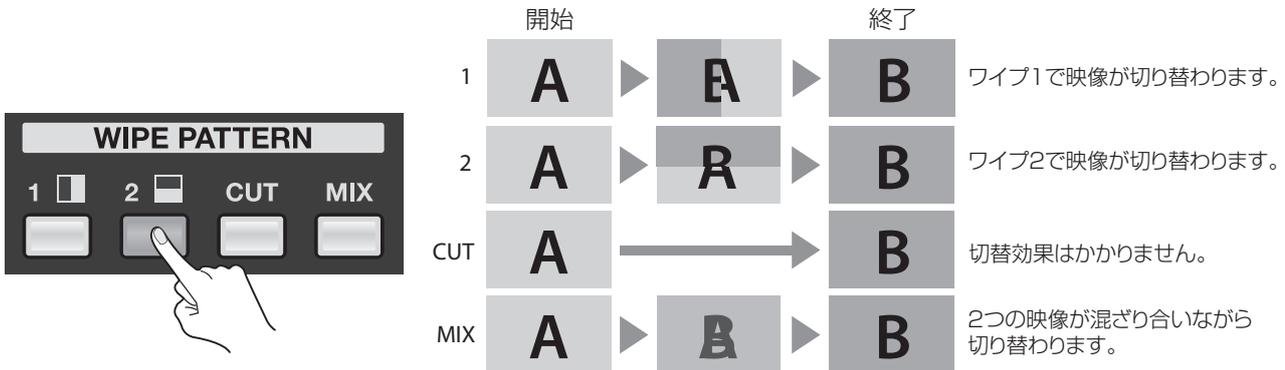
ビデオ・フェーダーを前後のどちらかいっぱい倒しておきます。



## 2. 切替効果を選ぶ

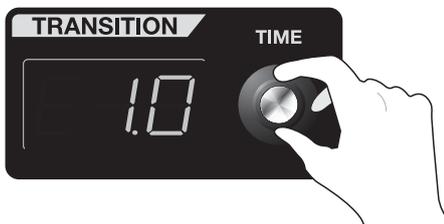
[WIPE PATTERN] ボタンを操作して、かけたい切替効果を選びます。

※[CUT] を選ぶと切替効果はかからず、映像がカットで切り替わります。



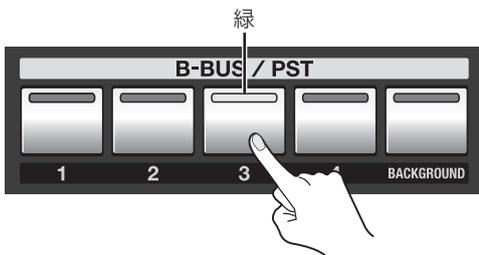
## 3. 効果の時間を設定する

[TRANSITION] のダイヤルを操作して、切替効果のかかる時間を設定します。



## 4. 次に出力したい映像を選ぶ

インプット・セレクターの [B-BUS/PST] 側で、次に出力したい（スタンバイさせる）映像のチャンネルを選びます。押したボタンのインジケータが緑色に点灯します。プレビュー・モニターの [INPUT] モードでは、選んだチャンネルの映像の周囲に緑色の枠が表示されます。



## 5. 選んでいた映像を出力する

[AUTO] ボタンを押します。最終出力が手順 4. で選んでいたチャンネルの映像に切り替わります。

※[WIPE PATTERN] で [CUT] 以外を選んでいる場合、切替効果の効果のかかっている間は [AUTO] ボタンのインジケータが点滅します。



完全に切り替わると、インプット・セレクターの [A-BUS/PGM] 側では、手順 4. で選んでいたチャンネルが赤く点灯します。また、プレビュー・モニターの [INPUT] モードでは、そのチャンネルの映像の周囲に赤い枠が表示されます。

このとき、[AUTO] ボタンを押す前に出力されていたチャンネルが、スタンバイのチャンネルに変わります。

切り替わっている途中（切替効果がかかっている間）は、[AUTO] ボタンのインジケータが点滅します。

## 出力映像をダイレクトに切り替える

[A-BUS/PGM] 側のボタンを押すことで出力映像をダイレクトに切り替えることもできます。ただし、この操作を行う場合、以下の条件で PST 出力に黒い映像が入ります。

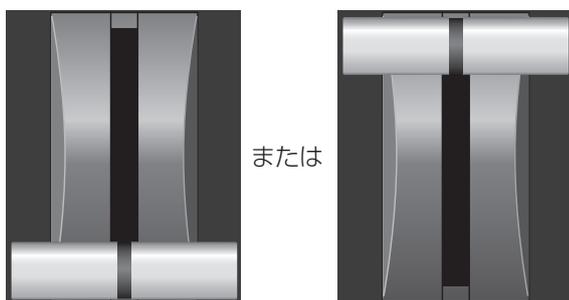
- DSK (P.34) で合成を行っているときに切替操作を行った場合。
- プレビュー・モニターの表示モードで [DSK] を選び、OUTPUT 1 または 2 の出カソースとして [PST] を選んだ場合。
- OUTPUT 1 または 2 の出カソースとして [DSK] を選んだ場合。

## ビデオ・フェーダーの操作で映像を切り替える

[AUTO] ボタンの操作では [TRANSITION] の時間設定に従って切替効果がかかりますが、ビデオ・フェーダーを操作して切り替えると、切替時間を手動でコントロールすることができます。

### 1. ビデオ・フェーダーをいっぱいに倒す

切替操作を行う前に、ビデオ・フェーダーを前後のどちらかいっぱいに倒します。



### 2. 切替効果を選ぶ

[WIPE PATTERN] ボタンを操作して、かけたい切替効果を選びます。

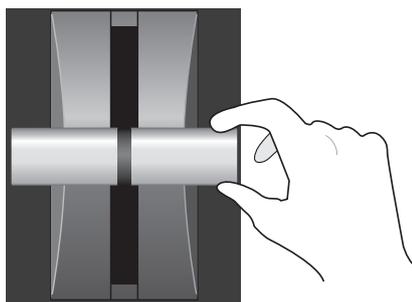
※[CUT] を選ぶとビデオ・フェーダーの中立地点で切り替わります。

### 3. 次に出力したいチャンネルを選ぶ

インプット・セレクターの [B-BUS/PST] 側で、次に出力したい（スタンバイさせる）映像のチャンネルを選びます。

### 4. 出力映像を切り替える

ビデオ・フェーダーを手順 1. とは反対の方向に動かします。動かしきると、最終出力が手順 3. で選んでいたチャンネルの映像に切り替わります。



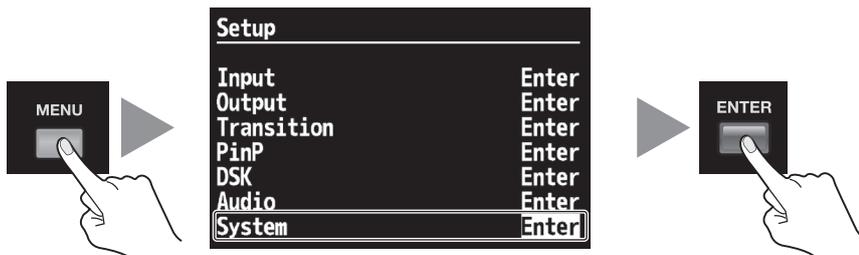
## A/B モードで切り替える

### 操作モードを変える

※メニュー操作については「メニュー操作とメニューの一覧」(P.44) もご参照ください。

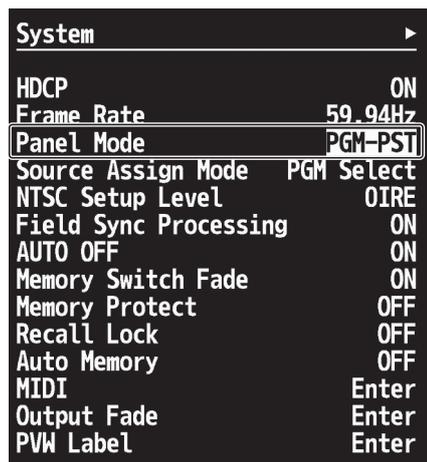
#### 1. System メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを操作して [System] を選び、[ENTER] ボタンを押して System メニューを開きます。



#### 2. [Panel Mode] を選ぶ

[CURSOR] ボタンを押して [Panel Mode] を選びます。



#### 3. [A/B Mode] を選ぶ

[VALUE] ダイアルを回して [A/B] を選びます。



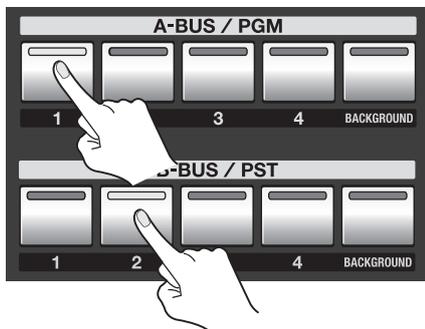
#### 4. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

## A/B モードで切り替える

### 1. A バス / B バスの映像を選ぶ

A バスおよび B バスのチャンネルを選びます。チャンネルを選ぶと、ボタンのインジケーターが赤または緑に点灯します。



### 2. 切替効果を選ぶ

[WIPE PATTERN] ボタンを操作して、かけたい切替効果を選びます。

### 3. ビデオ・フェーダーを動かす

ビデオ・フェーダーを動かします。奥に動かすと A バスの映像、手前に動かすと B バスの映像が表示されます。

※手順 2. で [CUT] を選んだ場合、ビデオ・フェーダーの中立地点で A バス / B バスの映像が切り替わります。

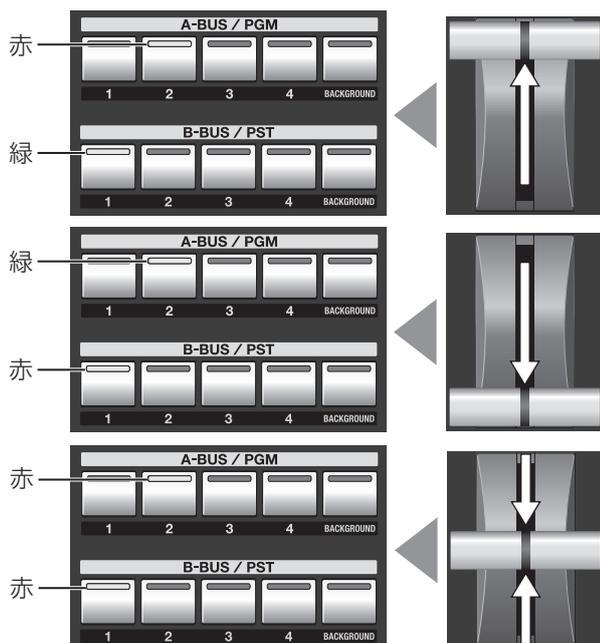
※A バスと B バスに同じチャンネルを選んでいる場合、ビデオ・フェーダーを動かしても映像は切り替わりません。

#### 【注意!】

ビデオ・フェーダーが完全に倒れていない状態で反対側のバスのチャンネルを切り替えると、プレビュー・モニターへの出力映像が乱れる場合があります。表示しているバスの反対側で入力チャンネルを変える場合は、ビデオ・フェーダーが完全に倒れていることを確認してください。

## インジケーターの色について

インプット・セレクターのボタンを押すと、赤または緑にインジケーターが点灯します。ビデオ・フェーダーの位置によって、色が変化します。ビデオ・フェーダーが完全に倒された側（100% 出力中）が赤で点灯し、反対側（スタンバイ中、全く出力されていない）が緑に点灯します。どちらかに完全に倒れておらず、どちらからも出力されている場合、両方が赤で点灯します。

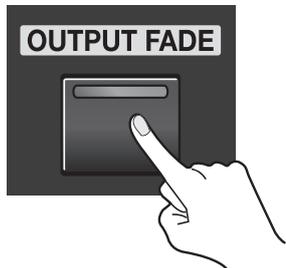


#### メモ

ただし、ピクチャー・イン・ピクチャー (P.33) で合成を行っている場合は、子画面のチャンネルはオレンジで点灯します。

## 最終出力にフェードをかける

[OUTPUT FADE] ボタンの操作により、V-40HD の最終出力にフェードをかけることができます。フェードをかけると、出力映像が徐々に消えたり（フェード・アウト）、徐々に出たり（フェード・イン）します。



### 1. フェード・アウトする

[OUTPUT FADE] ボタンを押すと、フェード・アウトが始まります。フェード中は、ボタンのインジケータが点滅します。完全にフェード・アウトするとインジケータは点灯に変わります。

### 2. フェード・インする

もう一度 [OUTPUT FADE] ボタンを押すと、フェード・インが始まります。完全にフェード・インするとインジケータは消灯します。

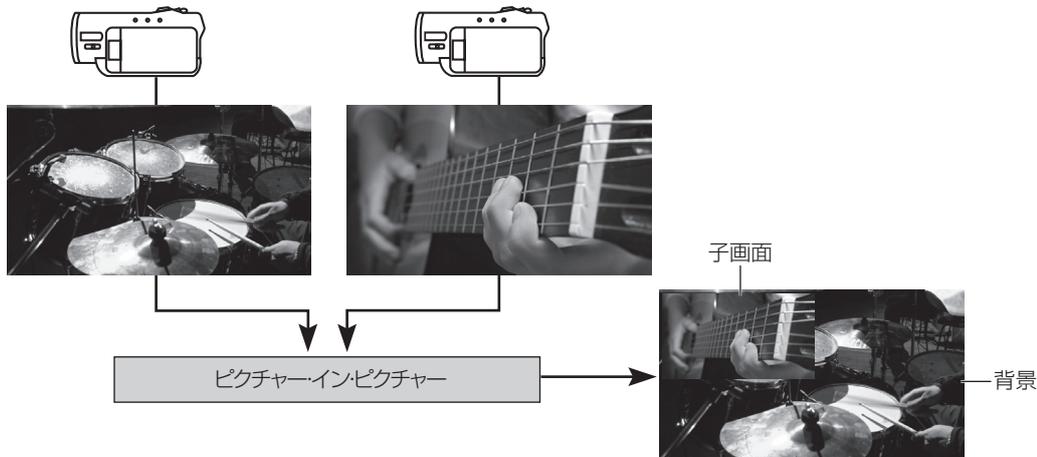
#### メモ

工場出荷時の設定では、フェード時間は 0.5 秒、フェード色は黒に設定されています。メニュー操作により設定を変えたい場合は、「メニュー操作とメニューの一覧」(P.44) をご参照ください。

# 映像を合成する

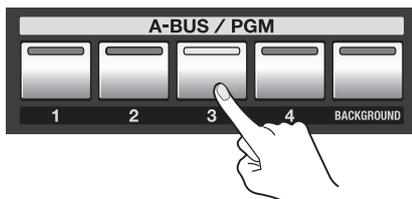
## ピクチャー・イン・ピクチャーで合成する

背景の映像に子画面を合成します。以下の手順は PGM/PST モードでの合成方法です。



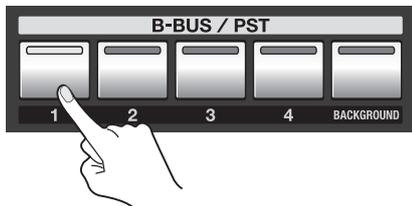
### 1. 背景のチャンネルを選ぶ

インプット・セレクターの [A-BUS/PGM] 側のボタン (1 ~ 4) を使い、背景になる映像のチャンネルを選びます。  
※背景を単色にしたい場合は、[BACKGROUND] を選びます。工場出荷時の設定では黒になります。



### 2. 子画面のチャンネルを選ぶ

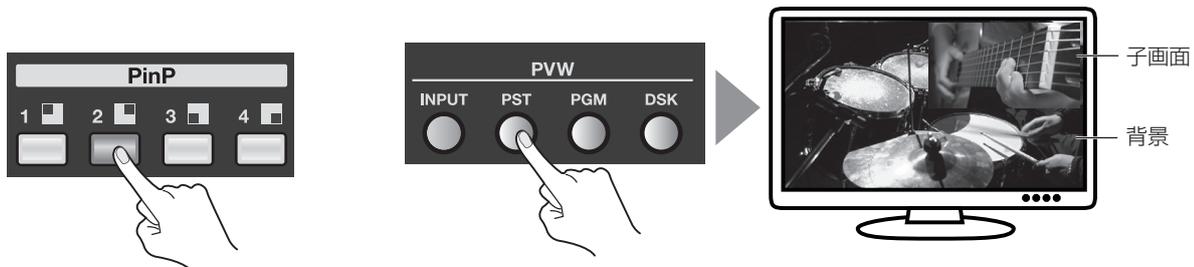
インプット・セレクターの [B-BUS/PST] 側のボタン (1 ~ 4) を使い、子画面表示する映像のチャンネルを選びます。



### 3. 合成結果をプレビュー表示する

PinP セレクターのボタンのどれか (1 ~ 4) を押して点灯させます。押すとボタンが緑色に点灯し、合成結果がプレビュー表示できるようになります。PVW セレクターで [PST] を選ぶと、プレビュー・モニターに合成結果がプレビュー表示されます。

※この時点では、合成結果はプレビュー・モニターのみに出力されます。最終出力には反映されません。

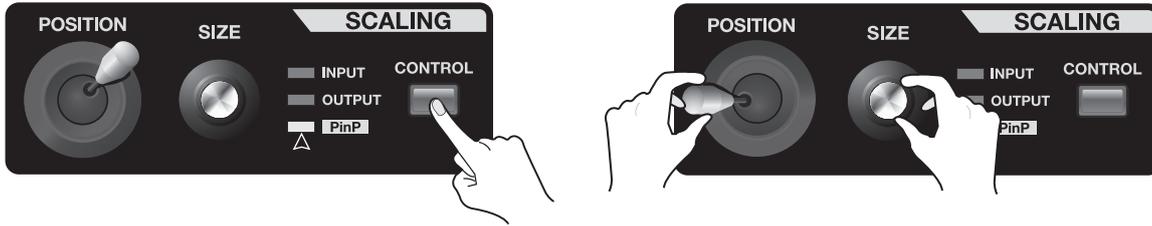


## 映像を合成する

### 4. 大きさと位置を調整する

SCALING セクションの [CONTROL] ボタンを押して、[PinP] インジケータを点灯させます。[POSITION] スティックと [SIZE] ダイアルを使って、子画面の表示位置と大きさを調整します。

※[INPUT] と [OUTPUT] については、「映像を拡大／縮小する」(P.38) をご参照ください。



### 5. 合成結果を出力する

[AUTO] ボタンを押すと、合成結果が出力されます。このとき、押されていた PinP セレクター・ボタンの色が赤に変わります。

※もう一度 [AUTO] ボタンを押すと、子画面が消えます。



#### ヒント

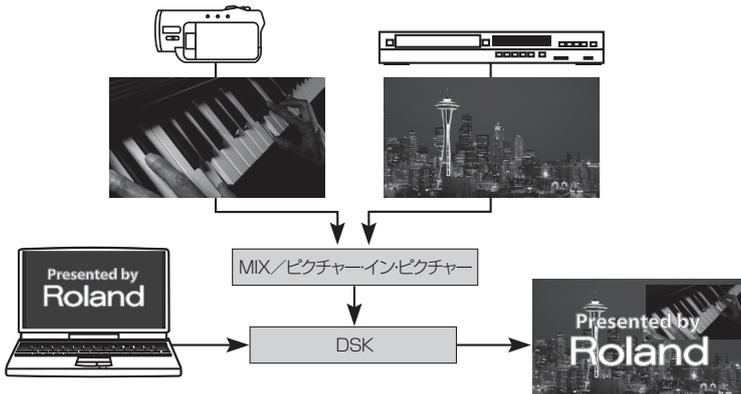
ビデオ・フェーダーを動かすことでも、子画面を出したり消したりすることができます。

#### メモ

A/B モードで合成する場合、PinP セレクター・ボタンを押した時点で出力中の映像が背景になります。反対側のバスで子画面の映像を選び、ビデオ・フェーダーまたは [AUTO] ボタンを操作すると子画面の表示／非表示を行うことができます。

## DSK で合成する

上流側（アップ・ストリーム）で映像の切替やピクチャー・イン・ピクチャーによる合成を行い、その結果に対して下流側（ダウン・ストリーム）でロゴやテキストを合成することができます。この機能により、ロゴ／テキストを出したままにして、バックグラウンドで映像の切替やピクチャー・イン・ピクチャーによる合成を行うことができます。



工場出荷時の設定では、4チャンネルの映像が DSK 合成で前面に表示されるようになっています。工場出荷時の設定のままを使う場合は、ロゴやテキストは4チャンネルに入力してください。設定を変える場合は「メニュー操作とメニューの一覧」(P.44) をご参照ください。また、工場出荷時の状態では、DSK の抜き色は黒に設定されています。こちらでもメニュー操作により変えることができます。

DSK 合成を行う場合は、DSK セクションのボタンとダイヤルを使います。

#### 1. 背景を選ぶ

背景の映像をインプット・セレクターの [A-BUS/PGM] 側のボタンを使って選びます。

#### 2. プレビュー・モニターを DSK モードにする

PVW セレクターで [DSK] を選び、DSK 合成のプレビューを表示するモードにします。

### 3. 抜け具合を調整する

プレビュー表示を見ながら DSK セクションの [KEY LEVEL] ダイアルを回して抜け具合を調整します。



### 4. 合成結果を出力する

DSK セクションの [AUTO] ボタンを押します。ボタンのインジケータが点灯し、ロゴ／テキストの合成結果が出力されます。



### 5. ロゴ／テキストを消す

もう一度 DSK セクションの [AUTO] ボタンを押します。ボタンのインジケータが消灯し、出力からロゴ／テキストが消えます。

## DSK の抜き色を青／緑に変更した場合

DSK の抜き色を青や緑に設定した場合、以下の設定項目が加わります。これらの項目は抜き色が黒／白の場合には設定できません。

- Y Level 抜き色の輝度を設定します。
- Pb Level 抜き色の Pb レベルを設定します。
- Pr Level 抜き色の Pr レベルを設定します。
- Gain エッジのぼかし度合いを設定します。

DSK	
PGM Output	OFF
Trantision	Cut
Type	Chroma 1 (Blue)
Y Level	200
Pb Level	130
Pr Level	125
Gain	4
Source Channel	4

#### ご注意!

抜き色を青または緑にした場合、前面の映像のフェード・イン／アウトはできなくなります。[AUTO] ボタンを押すと、カットで表示／非表示が切り替わります。

## DSK 合成中の注意事項

DSK 合成中に以下の操作を行うと、出力に黒い映像が入ります。

- ピクチャー・イン・ピクチャーと DSK の同時使用中に子画面／背景を切り替える。
- DSK でロゴ／テキストを表示し、切替効果をかけている間にソースのチャンネルを変える。

# オーディオに関する機能

## オーディオのソースを選ぶ

OUTPUT 1/2 に出力するオーディオのソースを選ぶことができます。Audio メニュー (P.48) の [HDMI Output] で以下から選びます。

Ch.1 HDMI Audio	HDMI オーディオの Ch 1 のみを出力します。
Ch.2 HDMI Audio	HDMI オーディオの Ch 2 のみを出力します。
Ch.3 HDMI Audio	HDMI オーディオの Ch 3 のみを出力します。
Ch.4 HDMI Audio	HDMI オーディオの Ch 4 のみを出力します。
Audio In	工場出荷時の設定。リア・パネルの [AUDIO IN] 端子への入力を出力します。
Mixer	上記すべてのソースのミックス結果を出力します。

### メモ

オーディオのソースとして [Mixer] を選んだ場合のみ、各ソースのボリューム調整画面に行くことができます。

## オーディオの出力レベルを調整する

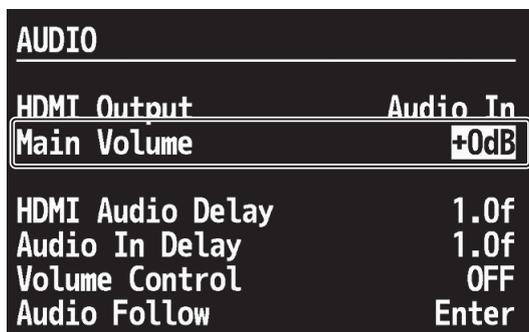
オーディオ・ミキサーなどのオーディオ・ソースからの入力を、HDMI 端子からビデオと一緒に出力するとき、以下の手順で出力レベルを調整することができます。

### 1. Audio メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [Audio] を選び、[ENTER] ボタンを押して Audio メニューを開きます。

### 2. Main Volume を選ぶ

[CURSOR] ボタンを押して [Main Volume] を選びます。



AUDIO	
HDMI Output	Audio In
Main Volume	+0dB
HDMI Audio Delay	1.0f
Audio In Delay	1.0f
Volume Control	OFF
Audio Follow	Enter

### 3. 出力レベルを調整する

[VALUE] ダイアルを回して出力レベルを調整します。出力先の機器のスピーカーやレベル・メーターで、出力レベルの変化を確認してください。

※ トップ・パネルの AUDIO インジケーターでもレベルを確認することができます。

### 4. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

### メモ

[Volume Control] を [ON] にすると、トップ・パネルの [VALUE] ダイアルで [Main Volume] を調整することができます。ただし、メニューの表示中は調整を行えませんが、[VALUE] ダイアルを使って調整する場合は、メニューを閉じてください。

## ビデオとオーディオのタイミングを合わせる（リップ・シンク）

以下の手順でオーディオ出力にディレイをかけて、ビデオとのタイミングを合わせることができます。

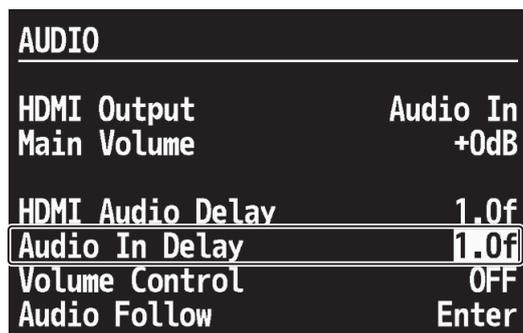
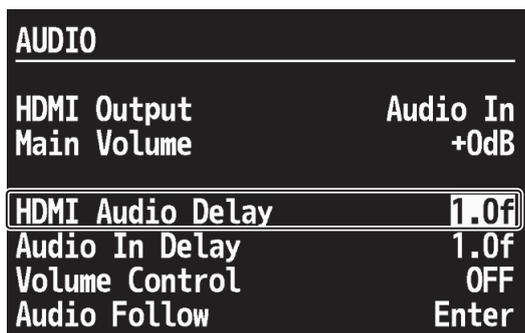
### 1. Audio メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [Audio] を選び、[ENTER] ボタンを押して Audio メニューを開きます。

### 2. ディレイ項目を選ぶ

[CURSOR] ボタンを押して以下の 2 つからディレイ量を調整する項目を選びます。

HDMI Audio Delay	HDMI から入力されるオーディオのディレイ量を調整します。
Audio In Delay	AUDIO IN 端子から入力されるアナログ・オーディオのディレイ量を調整します。



※工場出荷時の設定では、映像の入力から出力までにかかる時間にあわせ、ディレイ量は 1.0 フレームになっています。

### 3. タイミングを調整する

[VALUE] ダイアルを回してディレイ量を調整します。出力先の機器の画面／スピーカーでビデオとオーディオのタイミングを確認してください。

### 4. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

## ビデオの切り替えにオーディオの出力を連動する（オーディオ・フォロー）

以下の手順でビデオの切り替えに連動させて、オーディオを出力することができます。

### 1. Audio メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [Audio] を選び、[ENTER] ボタンを押して Audio メニューを開きます。

### 2. オーディオ・フォロー項目を選ぶ

[CURSOR] ボタンを押して [Audio Follow] を選び、[ENTER] ボタンを押してオーディオ・フォローの詳細設定画面を開きます。

### 3. チャンネルを選ぶ

[CURSOR] ボタンを押してオーディオ・フォローしたいチャンネルを選び、[VALUE] ダイアルを回して [ON] にします。

### 4. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

#### ヒント

Audio Input 端子から入力されるオーディオを映像の切り替えに連動させて出力することもできます。その場合は、手順 3 で [Audio In Audio Follow] を選び、連動させるチャンネルを [Ch.1] ~ [Ch.4]、[BG] (Background) から選びます。

#### メモ

オーディオ・フォロー機能をオンにすると、[HDMI Output] の設定が自動的に [Mixer] に切り替わります。

# その他の機能について

## 映像を拡大縮小する

SCALING セクションの [SIZE] ダイアルを使うことで、映像を拡大縮小することができます。また、[POSITION] スティックを使うことで、表示位置を変えることができます。

※拡大／縮小の範囲は 10%～1000%です。

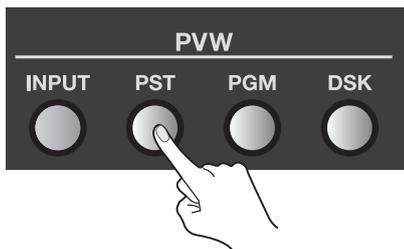
### ソースの映像を拡大／縮小する

#### 1. 拡大／縮小したい映像のチャンネルをスタンバイさせる

拡大／縮小したい映像のチャンネルを選んでスタンバイさせます。

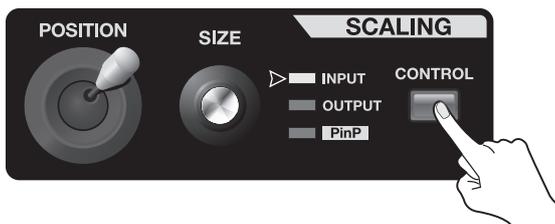
#### 2. 選んだチャンネルの映像をプレビュー表示する

PVW セレクターで [PST] を選び、プレビュー・モニターに手順 1. で選んだチャンネルの映像を表示します。



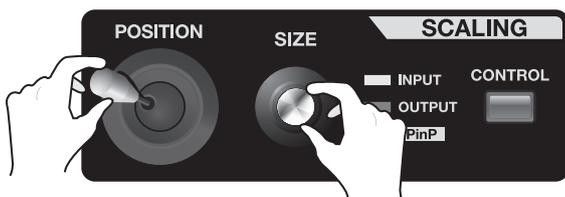
#### 3. 拡大／縮小の対象を選ぶ

SCALING セクションの [CONTROL] ボタンを押し、[INPUT] インジケータを点灯させます。



#### 4. 拡大／縮小と表示位置の調整を行う

SCALING セクションの [SIZE] ダイアルと [POSITION] スティックを操作し、プレビュー・モニターに表示されている映像の拡大／縮小と表示位置の調整を行います。



### メモ

Input メニューの [Zoom] および [Position] の値を変更することでも拡大／縮小や表示位置の調整を行うことができます。また、Input メニューでは映像のクロップやアスペクト比の変更を行うこともできます。

#### 5. 拡大／縮小した映像を出力する

[AUTO] ボタンやビデオ・フェーダーの操作で、プレビューしていた映像のチャンネルを出力します。

### 現在出力している映像を拡大／縮小する

現在出力している映像を拡大／縮小する場合には、SCALING セクションの [CONTROL] ボタンで [OUTPUT] インジケータを点灯させます。ソース映像に対して行ったのと同様の操作で、最終出力映像の拡大／縮小や表示位置の調整を行うことができます。

### メモ

Output メニューの [Zoom] および [Position] の値を変更することでも拡大／縮小や表示位置の調整を行うことができます。また、Output メニューでは縦方向／横方向の拡大／縮小を個別に行うこともできます。

## 設定を保存する／呼び出す

### 現在の設定を内部メモリーに保存する

[MEMORY] の各ボタンを操作することで、V-40HD の内部メモリーに現在の設定を保存することができます。内部メモリーには 1 ～ 5 のバンクがあり、各バンクに 5 個、最大 25 個の設定を保存することができます。

#### ご注意!

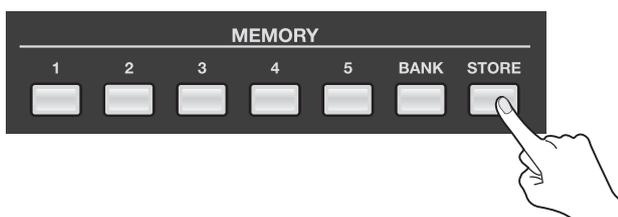
System メニューの [Memory Protect] が [ON] になっていると、保存操作を行うことができません。[Memory Protect] を選び、設定を [OFF] にしてください。

#### 1. 保存したい状態にする

ボタンやダイヤルを操作し、V-40HD のパネルを保存したい状態にします。

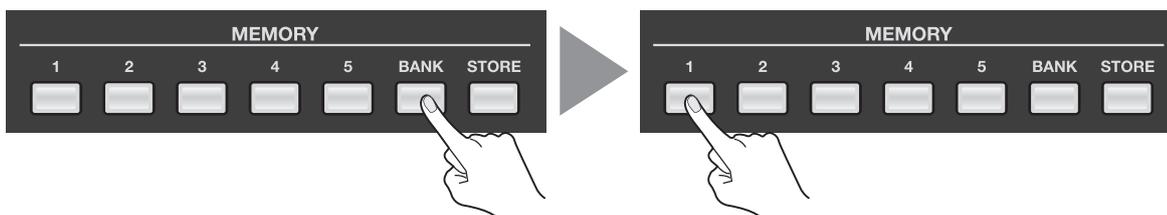
#### 2. 保存スタンバイ状態にする

[STORE] ボタンを押し、保存スタンバイ状態にします。このとき、最後に選ばれていた番号のボタンが点滅します。



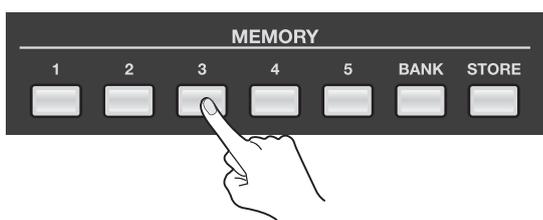
#### 3. 保存先のバンクを選ぶ

[BANK] ボタンを押します。現在選ばれているバンクのボタンが点灯します。続いて [1] ～ [5] の中から保存先のバンクを選びます。



#### 4. 保存先の番号を選ぶ

[1] ～ [5] の中から保存先のメモリー番号を選びます。選んでいたバンクの中の選んだメモリー番号に設定が保存されます。



### 保存した設定を呼び出す

V-40HD の起動時には、バンク 1 のメモリー番号 1 に保存してあった設定が読み込まれた状態になっています。保存した設定を呼び出す場合は、まず [BANK] ボタンを押してバンクを選びます。続いてメモリー番号のボタンを押すと、V-40HD のパネルは保存時の状態になります。

#### ヒント

- System メニューの [Auto Memory] を [ON] にしておくと、現在の設定が自動的にバンク 1 のメモリー番号 1 に保存されます。保存されるタイミングは、[MENU] ボタンまたは [CURSOR] ボタンを操作したときです。クロス・ポイントやビデオ・フェーダーなどの操作では保存されません。
- System メニューの [Recall Lock] を [ON] にすると、[MEMORY] の [1] ～ [5] ボタンを押しても設定の呼び出しができなくなります。
- System メニューの [Memory Switch Fade] を [ON] にしておくと、保存した設定を呼び出すとき、自動的にアウトプット・フェードがかかります。呼び出しが終わり、設定が切り替わった後にアウトプット・フェードが解除されます。

#### ご注意!

一部の項目の設定は、MEMORY ボタン (1-1 ～ 5-5) には保存されず、内部メモリーへの一括保存となります。一括保存される項目 (P.49) については、MEMORY ボタンを利用して複数の設定を保存することはできません。

## USB メモリーを使う

### USB メモリーの接続とフォーマット

USB MEMORY 端子に USB メモリーを接続します。

**ご注意!**

USB メモリーを使う場合は、以下の点にご注意ください。

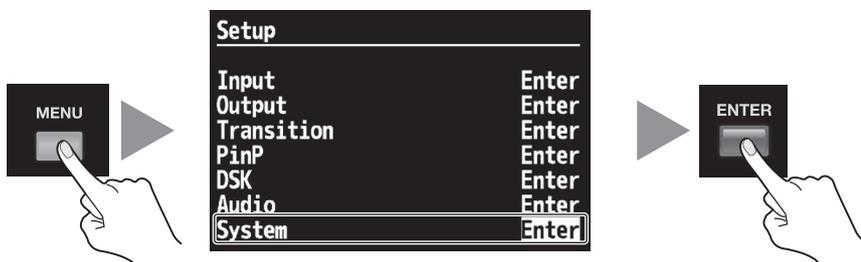
- USB メモリーは挿入方向や表裏に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。
- 一般的に市販されている USB メモリーでの動作テストは行っておりますが、全ての USB メモリーの動作を保証するものではありません。USB メモリーのメーカーや種類によっては、正しく動作しないものがあります。

#### 1. USB メモリーを接続する

リア・パネルの USB MEMORY 端子に USB メモリーを接続します。

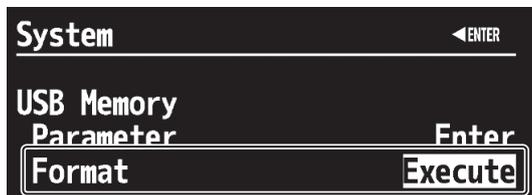
#### 2. System メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [System] を選び、[ENTER] ボタンを押して System メニューを開きます。



#### 3. フォーマット・メニューを選ぶ

[CURSOR] ボタンを押して [USB Memory] の中にある [Format] を選び、[ENTER] ボタンを押します。



#### 4. USB メモリーをフォーマットする

手順 3. で [ENTER] ボタンを押すと、[Push ENTER to execute] のメッセージが表示されます。フォーマットを実行する場合は [ENTER] ボタンを押します。

※フォーマットを実行すると、USB メモリーに保存されていた内容はすべて消えます。

※フォーマット中は [Processing.] のメッセージが表示されます。フォーマット中は絶対電源を切らないでください。

#### 5. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

**ご注意!**

V-40HD でフォーマットされていない USB メモリーは認識されませんのでご注意ください。

## 設定を USB メモリーにコピーする

フォーマット済みの USB メモリーに、V-40HD の内部メモリーに保存した内容をコピーすることができます。このとき、メモリーの 1-1 から 5-5 までの内容と本体に一括保存された内容とを一緒にコピーします。

### 1. System メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [System] を選び、[ENTER] ボタンを押して System メニューを開きます。

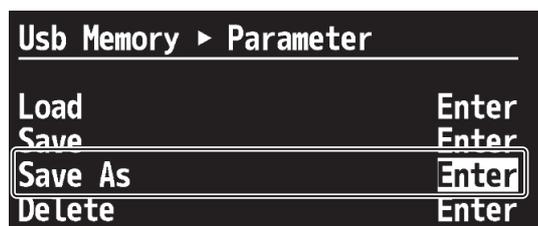
### 2. 保存メニューを選ぶ

[CURSOR] ボタンを押して [USB Memory] の中にある [Parameter] を選び、[ENTER] ボタンを押します。操作を選ぶ画面に切り替わります。



### 3. 新規保存メニューを選ぶ

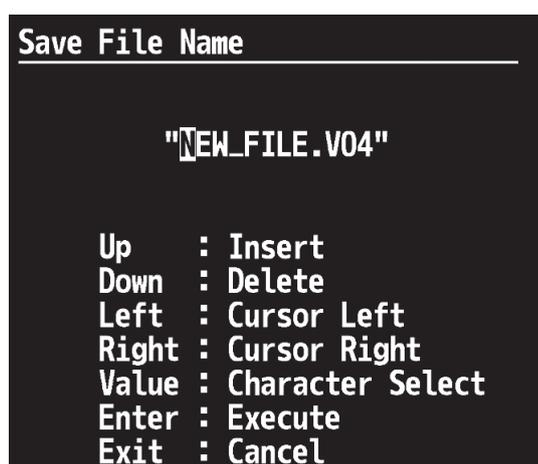
[CURSOR] ボタンを押して [Save As] を選び、[ENTER] ボタンを押します。ファイル名を編集する画面に切り替わります。



### 4. ファイル名を編集する

[CURSOR] ボタンでカーソル位置を左右に動かし、[VALUE] ダイアルを回して文字列を変えます。

※ファイルの拡張子は [V04] になります。パソコンでファイル名を編集した場合、小文字は大文字に変換されて表示されます。



### 5. USB メモリーに保存する

ファイル名を決めて [ENTER] ボタンを押すと、[Push ENTER to execute] のメッセージが表示されます。保存する場合は [ENTER] ボタンを押します。

※保存中は [Processing.] のメッセージが表示されます。保存中は絶対電源を切らないでください。

### 6. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

## プレビューのラベルを変える

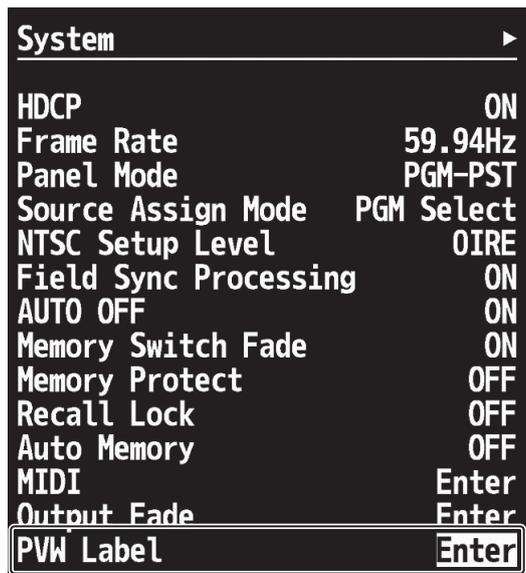
プレビュー・モニターに表示されているチャンネル名などの文字列を、任意の文字列に変えることができます。最大で8文字まで表示することができます。

### 1. System メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [System] を選び、[ENTER] ボタンを押して System メニューを開きます。

### 2. 文字列を変えたいラベルを選ぶ

[CURSOR] ボタンで [PVW Label] を選び、[ENTER] ボタンを押して開きます。文字列を変えたいラベルを [CURSOR] ボタンで選びます。[ENTER] ボタンを押すと、文字列を変える画面に切り替わります。



#### メモ

[PVW Label] の中にある [Indicate] の設定を [OFF] にすると、ラベル表示を消すことができます。

### 3. 文字列を変える

[CURSOR] ボタンでカーソル位置を左右に動かし、[VALUE] ダイアルを回して文字列を変えます。



### 4. メニューを閉じる

[ENTER] ボタンを押した後、[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。

#### で注意!

編集途中の文字列は、プレビュー・モニターの表示には反映されません。メニューを閉じると表示に反映されます。

## 工場出荷時の状態に戻す

各種設定を工場出荷時の状態に戻します。手順どおりに操作しても、取扱説明書に記載されている内容と違う動作をするときは、ファクトリー・リセットを実行してください。

※ファクトリー・リセットを実行すると、それまでに保存した設定内容はすべて失われます。MEMORY に保存した内容もすべて失われますのでご注意ください。

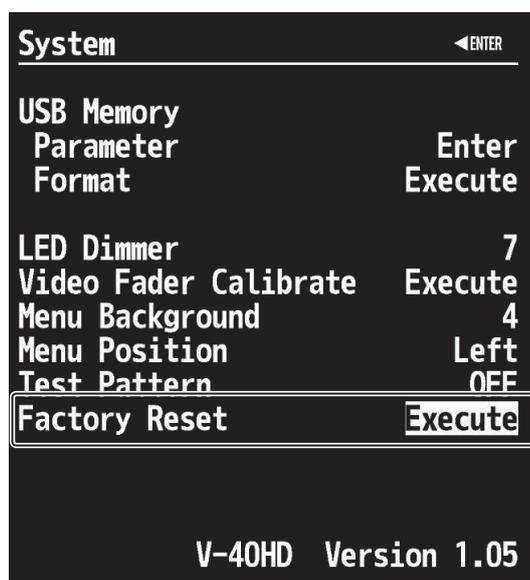
### 1. System メニューを開く

[MENU] ボタンを押してメニューを開きます。[CURSOR] ボタンを押して [System] を選び、[ENTER] ボタンを押して System メニューを開きます。

### 2. ファクトリー・リセット・メニューを選ぶ

[CURSOR] ボタンを押して [Factory Reset] を選び、[ENTER] ボタンを押します。[Push ENTER to execute] のメッセージが表示されます。

※目的のメニューが表示されていない場合は、左右の [CURSOR] ボタンを押してページを切り替えてください。



### 3. ファクトリー・リセットを実行する

[ENTER] ボタンを押すと、ファクトリー・リセットが実行されます。

※ファクトリー・リセットを実行中は [Processing.] のメッセージが表示されます。実行中は絶対電源を切らないでください。

### 4. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを何度か押してメニューを閉じます。



WIPE PATTERN の [1]、[MIX] および PinP の [3] を押しながら電源を入れると、TRANSITION インジケータに「Fr」と表示され、工場出荷時の状態で起動します。

# メニュー操作とメニューの一覧

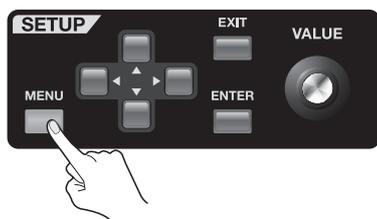
## メニュー操作

V-40HD の各種設定は、プレビュー・モニターに表示されるメニュー画面で行います。メニューの操作は以下の流れで行います。

※メニューの各項目については、次ページ以降をご参照ください。

### 1. メニュー画面を開く

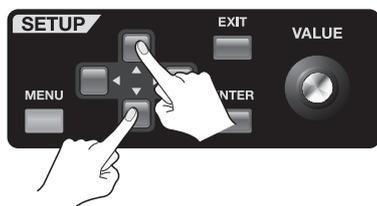
SETUP セクションの [MENU] ボタンを押し、メニュー画面を開きます。最初に第一階層のメニューが表示されます。



Input	ソースの割り当てなど、入力の設定を変えます。
Output	出力フォーマットの設定などを変えます。
Transition	切替効果の設定を変えます。
PinP	ピクチャー・イン・ピクチャーの設定を変えます。
DSK	DSK 合成の設定を変えます。
Audio	オーディオの設定を変えます。
System	V-40HD のシステム設定を変えます。

### 2. 目的のメニューを選ぶ

上下の [CURSOR] ボタンを押し、第一階層の中から目的のメニューを選びます。



### 3. 目的の項目を選ぶ

上下の [CURSOR] ボタンを押し、目的の項目を選びます。

※項目が複数ページに渡って表示されている場合は、画面の上部に三角形のマークが表示されます。このマークが表示されている場合は、左右の [CURSOR] ボタンを押し、表示するページを切り替えます。



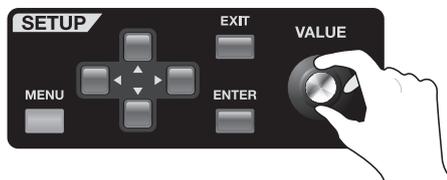
### 4. 設定画面に進む

画面の上部に [ENTER] が表示されている場合、[ENTER] ボタンを押し、その項目の詳細設定画面に進むことができます。



### 5. 設定値を変える

設定値の表示が反転している場合、[VALUE] ダイアルを回して設定値を変えることができます。



※ [ENTER] ボタンを押しながら [VALUE] ダイアルを回すと、設定値を 10 個づつ飛ばしながら送る／戻すことができます。

※ [ENTER] ボタンを押しながら [EXIT] ボタンを押すと、その項目を工場出荷時の設定値に戻すことができます。

※ [ENTER] ボタンを押しながら [EXIT] ボタンを 3 秒以上押し、現在表示されているすべての項目を工場出荷時の設定値に戻すことができます。ただし、表示されていない項目の設定値は戻りません。

### 6. メニューを閉じる

[EXIT] ボタンを押すと、一つ前の階層に戻ることができます。設定が終わったら、何度か [EXIT] ボタンを押してメニューを閉じます。

#### ご注意!

設定値は [MEMORY] ボタンに保存しないと内部メモリーに書き込まれません。「設定を保存する／呼び出す」(P.39) を参照し、電源を切る前に保存するようにしてください。

## メニューの一覧

## メモ

表示/設定値の [ ] で囲まれている値は工場出荷時の設定です。[ENTER] ボタンを押しながら [EXIT] ボタンを押すと、工場出荷時の設定に戻ることができます。

## Input メニュー

Ch.1 ~ Ch.4	No Signal, 720x480@59.94Hz ~ 1920x1200@60.00Hz	現在入力されている信号フォーマットを表示します。
	[HDMI]、RGB/Component、Composite、 Shared Input	現在選ばれている入力端子を表示します。[ENTER] で各チャンネルの詳細設定画面に切り替わります。
Background	R16: G16:B16	[ENTER] でバックグラウンド・カラーに関する詳細設定画面に切り替わります。

## CH.1 ~ CH.4 の詳細設定

※ソースとしてコンポジットを選んでいる場合、Color Space と Flicker Filter の設定を行うことはできません。

Color Space	[Auto]、RGB(0-255)、RGB(16-235)、 YCC(SD)、YCC(HD)	カラー・スペースを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Auto 入力信号に応じて自動的に設定が変わります。</li> <li>• RGB(0-255) スーパー・ブラック/スーパー・ホワイトまで出力します。</li> <li>• RGB(16-235) スーパー・ブラック/スーパー・ホワイトを出力しないようにします。</li> <li>• YCC(SD) 色信号の量を半分にします。</li> <li>• YCC(HD) 色信号をフルに出力します。</li> </ul>
Flicker Filter	[OFF]、ON	フリッカー・フィルターの有効/無効を選びます。 ※フリッカー・フィルターとは、走査線間の輝度差によって生じるちらつきを抑える機能です。

	以下の項目でスケーリングに関する設定を行います。		
	Zoom	10% ~ [100%] ~ 1000%	拡大/縮小率を設定します。
Scaling	Type	[Full]、Letterbox、Crop、 Dot by Dot、Manual	スケーリング・タイプを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Full アスペクト比を保持せず、入力される映像全体を出力画面全体にあわせて表示します。</li> <li>• Letterbox アスペクト比を保持し、出力画面に入力される映像全体を表示します。</li> <li>• Crop アスペクト比を保持し、入力される映像を出力画面全体に表示します。</li> <li>• Dot by Dot スケーリングを行いません。</li> <li>• Manual 以下の Manual 設定に従ってスケーリングします。</li> </ul>

[Manual] の場合、以下の設定を行うことができます。

Manual Size H	-2000 ~ [0] ~ +2000	横幅を設定します。
Manual Size V	-2000 ~ [0] ~ +2000	縦幅を設定します。
Position H	-1920 ~ [0] ~ +1920	横位置を設定します。
Position V	-1200 ~ [0] ~ +1200	縦位置を設定します。

※入出力フォーマット等の条件により、設定値の範囲は変化します。上記は最小/最大値です。

	以下の項目で色補正に関する設定を行います。		
Color Correction	Brightness	-64 ~ [0] ~ +63	明るさを調整します。
	Contrast	-64 ~ [0] ~ +63	コントラストを調整します。
	Saturation	-64 ~ [0] ~ +63	彩度を調整します。
	Red	-64 ~ [0] ~ +63	赤レベルを調整します
	Green	-64 ~ [0] ~ +63	緑レベルを調整します。
	Blue	-64 ~ [0] ~ +63	青レベルを調整します。

## メニュー操作とメニューの一覧

※ソースとして RGB/COMPONENT を選んでいる場合に限り、以下の項目を設定することができます。

Sampling	以下の項目でサンプリングに関する設定を行います。	
Auto Sampling	Execute	ENTER で自動調整を実行します。
Position H	-1920 ~ [0] ~ +1920	横位置を設定します。
Position V	-1200 ~ [0] ~ +1200	縦位置を設定します。
Frequency	-128 ~ [0] ~ +127	Frequency を調整します。
Phase	-128 ~ [0] ~ +127	Phase を調整します。

### Background の詳細設定

Color Setting	以下の項目で Background の色に関する設定を行います。	
Red	0 ~ [16] ~ 255	赤レベルを設定します。
Green	0 ~ [16] ~ 255	緑レベルを設定します。
Blue	0 ~ [16] ~ 255	青レベルを設定します。

## Output メニュー

Output 1/2 Format		
HDMI, RGB/Component	480i4:3/576i4:3, 480i16:9/576i16:9, 480p4:3/576p4:3, 480p16:9/576p16:9, 720P, [1080i], 1080P, VGA, SVGA, XGA, WXGA, FWXGA, SXGA, SXGA+, UXGA, WUXGA	OUTPUT 1/2(HDMI および RGB/Component) の出力フォーマットを選択します。
Composite	[480i4:3/576i4:3], 480i16:9/576i16:9	Composite 出力フォーマットを選択します。
PVW Out Format	1080P	PVW OUT 出力フォーマットを表示します。(変更不可)
Output 1	[ENTER] で Output 1 の詳細設定画面に進みます。	
Output 2	[ENTER] で Output 2 の詳細設定画面に進みます。	
Composite	[ENTER] で Composite の詳細設定画面に進みます。	
PVW Output	[ENTER] で PVW Out の詳細設定画面に進みます。	

### Output 1/2 の詳細設定

Color Space	[Auto], RGB(0-255), RGB(16-235), YCC(422), YCC(444)	カラースペースを選択します。 ※出力フォーマットが 480i/576i の場合、RGB は選べません。
Bus Assign	[PGM], PST, DSK Source	出力するバスを選択します。
DVI-D/HDMI Signal	DVI-D, [HDMI]	HDMI 端子の出力モードを選択します。
Tearing filter	[OFF], ON	ティアリングフィルターを設定します。ON にすると、出力が 1 フレーム遅延します。

Scaling	Zoom	50% ~ [100%] ~ 200%	縮小/拡大率を設定します。
	Type	[Full], Manual	クロッピング形式を選びます。
	Size H	-1920 ~ [0] ~ +1920	横方向のサイズを設定します。
	Size V	-1200 ~ [0] ~ +1200	縦方向のサイズを設定します。
	Position H	-175 ~ [0] ~ +175	横位置を設定します。
	Position V	-1200 ~ [0] ~ +1200	縦位置を設定します。

Color Correction	Brightness	-64 ~ [0] ~ +63	明るさを調整します。
	Contrast	-64 ~ [0] ~ +63	コントラストを調整します。
	Saturation	-64 ~ [0] ~ +63	彩度を調整します。
	Red	-64 ~ [0] ~ +63	赤レベルを調整します。
	Green	-64 ~ [0] ~ +63	緑レベルを調整します。
	Blue	-64 ~ [0] ~ +63	青レベルを調整します。

## Composite の詳細設定

Scaling	Zoom	50% ~ [100%]	縮小/拡大率を設定します。
	Type	[Full]、Letterbox、Crop、Manual	クロッピング形式を選びます。
	Size H	-1000 ~ [0] ~ +1000	横方向のサイズを設定します。
	Size V	-540 ~ [0] ~ +540	縦方向のサイズを設定します。
	Position H	-200 ~ [0] ~ +200	横位置を設定します。
	Position V	-150 ~ [0] ~ +150	縦位置を設定します。
Color Correction	Brightness	-64 ~ [0] ~ +63	明るさを調整します。
	Contrast	-64 ~ [0] ~ +63	コントラストを調整します。
	Saturation	-64 ~ [0] ~ +63	彩度を調整します。
	Red	-64 ~ [0] ~ +63	赤レベルを調整します。
	Green	-64 ~ [0] ~ +63	緑レベルを調整します。
	Blue	-64 ~ [0] ~ +63	青レベルを調整します。

## PVW Out の詳細設定

DVI-D/HDMI Signal	DVI-D、[HDMI]	PVW OUT の出力モードを選択します。
-------------------	--------------	-----------------------

## Transition メニュー

Time	0.0s ~ [1.0s] ~ 10.0s、0s00f ~ 10s00f、0f ~ 300f	トランジション・タイムを設定します。
Unit	[Seconds]、Seconds.Frames、Frames	トランジション・タイムの単位を選びます。
Wipe Pattern	1、2、CUT、MIX	ワイプ・パターンを選びます。

## Wipe Pattern 1/2 の詳細設定

Pattern	Horizontal、Vertical、Horizontal Open、Vertical Open、Upper Left、Upper Right、Lower Left、Lower Right、Box	ワイプ・パターンを選びます。
Direction	[Normal]、Reverse、N/R	ワイプ方向を選びます。

## PinP メニュー

Status	[OFF]、PVW、PGM	PinP 合成の出力状態を以下から選びます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• OFF：使用しない</li> <li>• PVW：プレビューに表示する</li> <li>• PGM：最終出力に表示する</li> </ul>
--------	---------------	--

## Position 1 ~ 4 の詳細設定

PinP の [1] ~ [4] ボタンに関する設定を行います。

Size	10% ~ [30%] ~ +100%	子画面のサイズを設定します。
Position H	-100% ~ +100%	子画面の横位置を設定します。
Position V	-100% ~ +100%	子画面の縦位置を設定します。
Cropping Type	[Original]、4:3、5:4、16:9、Manual	子画面をクロッピングするときのタイプを選びます。

Manual の場合、以下の設定を行うことができます。

Manual Cropping H	-2000 ~ [0] ~ +2000	横方向のクロッピング幅を設定します
Manual Cropping V	-2000 ~ [0] ~ +2000	縦方向のクロッピング幅を設定します。
View	子画面に表示する画像の拡大/縮小や位置設定を行います。	
Size	[100%] ~ 1000%	拡大/縮小率を設定します。
Position H	-1920 ~ [0] ~ +1920	横方向の表示位置を設定します。
Position V	-1200 ~ [0] ~ +1200	縦方向の表示位置を設定します。

DSK メニュー

PGM Output	[OFF], ON	DSK を最終出力する／しないを設定します。
Transition	CUT、[MIX]	前面の映像を出し方／消し方を選びます。
Type	Luminance 1 (White)、 [Luminance 2 (Black)], Chroma 1 (Blue)、 Chroma 2 (Green)	キー合成のタイプ（抜き色）を選びます。
Level	0 ~ 15	Luminance 1/2 を選んだ場合の透過度を設定します。
Y Level	0 ~ 255	Chroma 1/2 を選んだ場合の抜き色の輝度を設定します。
Pb Level	0 ~ 255	Chroma 1/2 を選んだ場合の抜き色の Pb レベルを設定します。
Pr Level	0 ~ 255	Chroma 1/2 を選んだ場合の抜き色の Pr レベルを設定します。
Gain	0 ~ 9	Chroma 1/2 を選んだ場合のエッジのぼかし度合いを設定します。
Source Channel	1 ~ [4]	DSK 合成で上に重なる映像のチャンネルを選びます。

Audio メニュー

HDMI Output	Ch.1 HDMI Audio、 Ch.2 HDMI Audio、 Ch.3 HDMI Audio、 Ch.4 HDMI Audio、 [Audio In]、 Mixer	出力するオーディオのソースを選びます。
Main Volume	Mute、-48dB ~ [0dB] ~ +6dB	オーディオ出力のボリュームを調整します。
Mixer	[ENTER] でミキサーに関する詳細設定画面に切り替わります。	
HDMI Audio Delay	0.0 ~ [1.0] ~ 12.0 (0.1 フレーム単位)	HDMI オーディオ入力のディレイ量を設定します。
Audio In Delay	0.0 ~ [1.0] ~ 12.0 (0.1 フレーム単位)	アナログ・オーディオ入力のディレイ量を設定します。
Volume Control	[OFF]、ON	ON にした場合、[VALUE] ダイアルでボリューム調整を行います（メニューが表示されていないときのみ）。
Audio Follow	[ENTER] でオーディオ・フォローに関する詳細設定画面に切り替わります。	

Mixer の詳細設定

Ch.1 HDMI Audio Volume	Mute、-48dB ~ [0dB] ~ +6dB	HDMI Ch1 のボリュームを調整します。
Ch.2 HDMI Audio Volume	Mute、-48dB ~ [0dB] ~ +6dB	HDMI Ch2 のボリュームを調整します。
Ch.3 HDMI Audio Volume	Mute、-48dB ~ [0dB] ~ +6dB	HDMI Ch3 のボリュームを調整します。
Ch.4 HDMI Audio Volume	Mute、-48dB ~ [0dB] ~ +6dB	HDMI Ch4 のボリュームを調整します。
Audio In Volume	Mute、-48dB ~ [0dB] ~ +6dB	アナログ・オーディオ入力のボリュームを調整します。

Audio Follow の詳細設定

Ch.1 HDMI Audio Follow	[OFF]、ON	HDMI Ch1 でオーディオ・フォローする／しないを設定します。
Ch.2 HDMI Audio Follow	[OFF]、ON	HDMI Ch2 でオーディオ・フォローする／しないを設定します。
Ch.3 HDMI Audio Follow	[OFF]、ON	HDMI Ch3 でオーディオ・フォローする／しないを設定します。
Ch.4 HDMI Audio Follow	[OFF]、ON	HDMI Ch4 でオーディオ・フォローする／しないを設定します。
Audio In Audio Follow	[OFF]、Ch.1 ~ Ch.4、BG	ビデオ入力のどのチャンネルと連動してオーディオ・フォローするかを設定します。

## System メニュー

**ご注意!**

表の中でグレーで表示されている項目の設定は、MEMORY ボタン（1-1 ～ 5-5）には保存されません。これらの設定は一括保存となりますので、MEMORY ボタンを利用して複数の設定を保存することはできません。これらの設定はメニューを閉じたときに保存されますので、メニューを表示したままで電源を切らないでください。

HDCP	[OFF]、ON	HDCP の無効/有効を選びます。[ON] を選ぶと確認画面が表示されます。
Frame Rate	[59.94Hz]、50Hz	システム・フレーム・レートを選びます。
Panel Mode	A/B、[PGM-PST]	操作モードを選びます。
Source Assign Mode	OFF、[PGM Select]、PST Select	入力ソース割り当てボタンの動作モードを切り替えます。(P.18)
NTSC Setup Level	[OIRE]、7.5IRE	NTSC のセットアップ・レベルを選びます。
Field Sync Processing	OFF、[ON]	ON にすると、インターレース入力と OUTPUT1 のフィールドが同期します。
AUTO OFF	OFF、[ON]	オート・オフを設定します。ON だと 240 分後に電源が切れます。
Memory Switch Fade	OFF、[ON]	メモリー読み出し時に自動的にアウトプット・フェードする/しないを選びます。
Memory Protect	[OFF]、ON	MEMORY ボタンへの保存操作の有効/無効を選びます。
Recall Lock	[OFF]、ON	MEMORY ボタンの呼び出し操作の有効/無効を選びます。
Auto Memory	[OFF]、ON	現在の設定を内部メモリーに自動保存する/しないを選びます。[ON] を選ぶと、現在の設定がバンク 1 のメモリー番号 1 に自動的に保存されます。
MIDI	[ENTER] で MIDI に関する詳細設定画面に切り替わります。	
Output Fade	[ENTER] でアウトプット・フェードに関する詳細設定画面に切り替わります。	
PVW Label	[ENTER] で PVW ラベルの編集画面に切り替わります。	
USB Memory	USB メモリーに関する設定を行います。	
	Parameter	[ENTER] で USB メモリーへの保存/読み込みに関するパラメーター設定を行うことができます。
	Format	[ENTER] で USB メモリーのフォーマット画面に切り替わります。
LED Dimmer	0 ～ [7]	トップ・パネル LED の明るさを調節します。
Video Fader Calibrate	[ENTER] でビデオ・フェーダーの校正画面に切り替わります。	
Menu Background	0 ～ [4] ～ 7	メニューの背景の透明度を設定します。
Menu Position	[Left]、Right	メニューの表示位置を切り替えます。[MENU] ボタンを押しながら左右の [CURSOR] ボタンを押すことでも切り替えることができます。
Test Pattern	[OFF]、Color Bar 75%、Color Bar 100%、Ramp、Step、Hatch	テストパターン出力のオン/オフと出力するパターンを選びます。
Factory Reset	V-40HD の設定を工場出荷時の状態に戻します。[ENTER] で確認画面が表示されます。	

## MIDI の詳細設定

Status	OFF、[Native]、V-LINK Master、V-LINK Slave、MVC Slave	V-40HD の MIDI リモート・コントロール・モードを選びます。 ※[V-LINK Slave] および [MVC Slave] は、接続した MIDI 機器からの V-LINK ON / MVC ON の受信時に表示されます。
Through Output	[OFF]、ON	MIDI OUT/THRU 端子の動作を選びます。
Channel	[1] ～ 16	Native で使用する MIDI チャンネルを選びます。

## アウトプット・フェードの詳細設定

Time	0.0s ～ [0.5s] ～ 10.0s	フェードする時間を設定します。
Audio Control	OFF、[ON]	オーディオ・ボリュームを連動させる/させないを選びます。
Color Setting	以下の項目でアウトプット・フェードの色に関する設定を行います。	
Red	0 ～ [16] ～ 255	赤レベルを設定します。
Green	0 ～ [16] ～ 255	緑レベルを設定します。
Blue	0 ～ [16] ～ 255	青レベルを設定します。

### PVW ラベルの編集

Indicate	OFF、[ON]	赤／緑の枠とラベルを表示する／しないを選びます。
PST	["PST"]	[ENTER] で PST 表示時のラベル入力画面を表示します。
PGM	["PGM"]	[ENTER] で PGM 表示時のラベル入力画面を表示します。
DSK	["DSK"]	[ENTER] で DSK 表示時のラベル入力画面を表示します。
Ch.1		
HDMI	["CH1 HDMI"]	[ENTER] でチャンネル 1 HDMI のラベル入力画面を表示します。
RGB/Component	["CH1 RGB "]	[ENTER] でチャンネル 1 RGB のラベル入力画面を表示します。
Composite	["CH1 CMP "]	[ENTER] でチャンネル 1 COMPOSITE のラベル入力画面を表示します。
Ch.2		
HDMI	["CH2 HDMI"]	[ENTER] でチャンネル 2 HDMI のラベル入力画面を表示します。
RGB/Component	["CH2 RGB "]	[ENTER] でチャンネル 2 RGB のラベル入力画面を表示します。
Composite	["CH2 CMP "]	[ENTER] でチャンネル 2 COMPOSITE のラベル入力画面を表示します。
Shared Input	["CH2 SHR "]	[ENTER] でチャンネル 2 Shared Input のラベル入力画面を表示します。
Ch.3		
HDMI	["CH3 HDMI"]	[ENTER] でチャンネル 3 HDMI のラベル入力画面を表示します。
RGB/Component	["CH3 RGB "]	[ENTER] でチャンネル 3 RGB のラベル入力画面を表示します。
Composite	["CH3 CMP "]	[ENTER] でチャンネル 3 COMPOSITE のラベル入力画面を表示します。
Shared Input	["CH3 SHR "]	[ENTER] でチャンネル 3 Shared Input のラベル入力画面を表示します。
Ch.4		
HDMI	["CH4 HDMI"]	[ENTER] でチャンネル 4 HDMI のラベル入力画面を表示します。
RGB/Component	["CH4 RGB "]	[ENTER] でチャンネル 4 RGB のラベル入力画面を表示します。
Composite	["CH4 CMP "]	[ENTER] でチャンネル 4 COMPOSITE のラベル入力画面を表示します。
Shared Input	["CH4 SHR "]	[ENTER] でチャンネル 4 Shared Input のラベル入力画面を表示します。

### USB メモリーのパラメーター設定

Load	[ENTER] で読み込みファイル選択画面を表示します。
Save	[ENTER] で上書きファイル選択画面を表示します。
Save As	[ENTER] で新規保存ファイル名の入力画面を表示します。
Delete	[ENTER] で削除ファイル選択画面を表示します。

### USB メモリーのフォーマット

Format	Push Enter to Execute.	[ENTER] でフォーマットを開始します。
--------	------------------------	------------------------

### ビデオ・フェーダーの校正

Set at upper position and push ENTER.	[ENTER] で上位置の校正を開始します。
Set at lower position and push ENTER.	[ENTER] で下位置の校正を開始します。

### ファクトリー・リセット

Factory Reset	Push Enter to Execute.	[ENTER] でファクトリー・リセットを開始します。
---------------	------------------------	-----------------------------

## 主な仕様

### 信号処理

映像	4 : 4 : 4 (Y/Pb/Pr)、10ビット ※出力処理は 4:2:2、8ビット。
音声	サンプリング・レート : 24ビット / 48kHz、2ch

### 入出力フォーマット

「入出力フォーマットについて」(P.23) をご参照ください。

### 入力端子

映像	HDMI	Type A (19ピン) × 4 (INPUT 1 ~ 4)
	RGB / コンポーネント	15ピン・ミニ D-sub タイプ × 4 (INPUT 1 ~ 4)
	コンポジット	BNC タイプ × 4 (INPUT 1 ~ 4)
音声	TRS 標準タイプ (バランス / アンバランス) × 1 ペア (AUDIO INPUT)	

### 出力端子

最終出力	HDMI	Type A (19ピン) × 2 (OUTPUT 1/2)
	RGB / コンポーネント	15ピン・ミニ D-sub タイプ × 2 (OUTPUT 1/2)
	コンポジット	BNC タイプ × 1 (OUTPUT 1)
プレビュー出力	HDMI	Type A (19ピン) × 1

### その他の端子

タリ-	15ピン・ミニ D-sub タイプ × 1 (最大入力 : 12V/200mA、オープン・コレクター・タイプ)
MIDI	5ピン DIN タイプ × 2 (IN、OUT/THRU)
RS-232C	9ピン D-sub タイプ × 1
USB	A タイプ × 1 (ホスト、USB メモリー用)

### 信号レベル / インピーダンス

RGB / コンポーネント	信号レベル	0.7Vp-p (H、V : 5V TTL)
	インピーダンス	75 Ω
コンポジット	信号レベル	1.0Vp-p (輝度信号)、0.286Vp-p (NTSC 色差信号)、0.3Vp-p (PAL 色差信号)
	インピーダンス	75 Ω
アナログ音声	規定入力レベル	+4dBu
	最大入力レベル	+22dBu
	インピーダンス	15k Ω

### エフェクト

切替	ミックス、カット、ワイプ (9種類)
合成	ピクチャー・イン・ピクチャー、DSK (ルミナンス・キー / クロマ・キー)
音声	ディレイ (0.0 ~ 12.0 フレーム)
その他	アウトプット・フェード (映像 / 音声)

### その他

電源	AC アダプター (DC 12V)
消費電流	2.6A
外形寸法	317 (幅) × 266 (奥行き) × 108 (高さ) mm
質量	3.4kg (AC アダプターを除く)
付属品	AC アダプター (4ピン XLR タイプ接続端子)、電源コード、RCA-BNC 変換プラグ × 4 個、取扱説明書、ローランド ユーザー登録カード、保証書

※0dBu = 0.775Vrms

※製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

## リモート・コントロールについて

### MIDI および RS-232C

V-40HD は MIDI および RS-232C でのリモート・コントロールに対応しており、外部機器からリモート・コントロールすることができます。リモート・コントロールを行う場合は、以下のローランド・ホームページから「リモート・コントロール・ガイド」をダウンロードしてご参照ください。

<http://www.roland.co.jp/manuals/>

### MIDI VISUAL CONTROL



V-40HD は MIDI VISUAL CONTROL 対応機器からのリモート・コントロールに対応しています。MIDI VISUAL CONTROL とは、MIDI を使用して音楽にあわせた映像演出を行うための機能です。

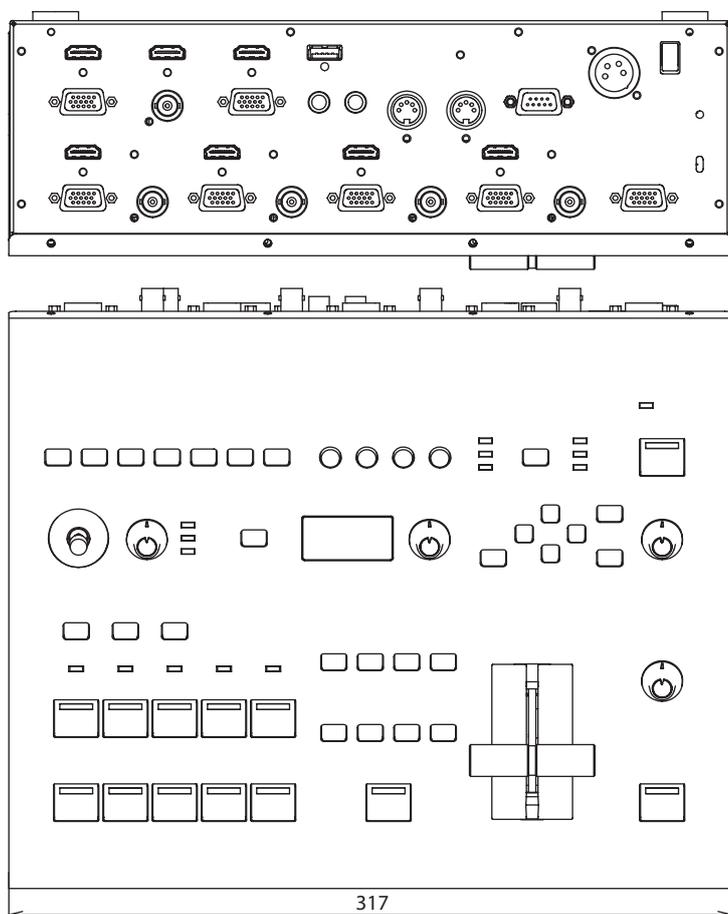
## 盗難防止用ロックについて

市販の盗難防止用セキュリティー・ワイヤーなどを接続することができます。

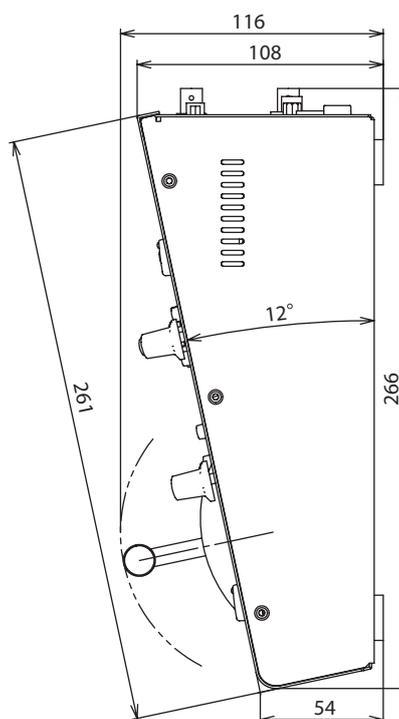
<http://www.kensington.com/>



## 寸法図



単位：mm



## 故障かな？と思ったら

### 電源が入らない

OUTPUT 1/2 の HDMI 端子または PVW OUT 端子に機器が正しく接続されていますか？

OUTPUT 1/2 の HDMI 端子または PVW OUT 端子に HDMI 出力の機器を接続すると、本体の電源が入らないことがあります。

### プレビュー・モニターに何も表示されない

接続しているモニターは 1920 × 1080/60Hz(プログレッシブ)の解像度/リフレッシュ・レートに対応していますか？

対応していないモニターには表示されません。また、HDCP 信号に対応したモニター機器でないと表示されません。

HDMI - DVI 変換ケーブルを使って接続する場合は、Output メニューの PVW Output を DVI-D に設定してください。

### コンポジット入力が出力されない

コンポジットがソースとして割り当てられていますか？

工場出荷時の状態では、HDMI 入力が割り当てられています。コンポジット入りに割り当てを切り替える必要があります (P.20)。

フレーム・レートは合っていますか？

本体のフレーム・レートと入力信号のフレーム・レート (NTSC/PAL) が合っていないと、出力されません。

### アナログ RGB 入力が出力されない

RGB がソースとして割り当てられていますか？

工場出荷時の状態では、HDMI 入力が割り当てられています。アナログ RGB 入りに割り当てを切り替える必要があります。(P.19)

※変換ケーブルを使用してアナログ・コンポーネントを接続する場合も同様の操作が必要です。

入力のリフレッシュ・レートは 60Hz 以下になっていますか？

60Hz を超えるリフレッシュ・レートで入力すると、信号が認識されません。

### HDMI 入力が出力されない

HDMI がソースとして割り当てられていますか？

正しく割り当てられていないと、信号を認識することができません。

入力している信号に HDCP がかかっていますか？

HDCP のかかった信号を入力する場合は、HDCP 設定をオンにしてください。

### 出力の色がおかしい

カラー・スペースが正しく設定されていますか？

- Input メニューの各チャンネルで正しく設定してください。
- Output メニューのカラー・スペースを正しく設定してください。

OUTPUT FORMAT の設定は、接続しているモニターが対応していますか？

### OUTPUT 1/2 の RGB COMPONENT 端子から出力されない

HDCP 信号を入力する設定になっていませんか？

System メニューの [HDCP] が [ON] になっていると、RGB/COMPONENT 端子からの出力は止まります。

※ただし、HDMI 出力は継続されます。

出力フォーマットでインターレースのフォーマットを選んでいませんか？

RGB/COMPONENT 端子から出力する場合には、プログレッシブまたは RGB のフォーマットを選んでください。

### OUTPUT 1 の COMPOSITE 端子から出力されない

HDCP 信号を入力する設定になっていませんか？

System メニューの [HDCP] が [ON] になっていると、RGB/COMPONENT と同様に OUTPUT 1 の COMPOSITE 端子からの出力も止まります。

### DSK での合成ができない

DSK メニューの [Source Channel] で指定しているチャンネルにロゴやテキストは入力されていますか？

DSK メニューの [TYPE] や [Level] もソースに合わせて適切な値に調整してください。

### DSK 合成でロゴ／テキストをフェード・イン／アウトできない

切替効果でカットを選んでいませんか？

DSK の [Type] で [Chroma 1] または [Chroma 2] を選んでいませんか？

この場合は、フェード・イン／アウトではなく、カット・イン／アウトになります。

### OUTPUT 1/2 に接続した機器からオーディオが出力されない。

Audio メニューの [HDMI Output] で正しくソース選択が行われていますか？

[Main Volume] は小さくなっていませんか？

接続しているモニターの音量は小さくなっていませんか？

ソース機器／出力機器はリニア PCM に対応していますか？

### AUDIO INPUT に接続した機器の音量が小さい。

抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？

抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。

### ビデオとオーディオのタイミングが合っていない。

Audio メニューの [HDMI Audio Delay] と [Audio In Delay] を調整してください。

### USB メモリーが使えない

V-40HD で USB メモリーをフォーマットしていますか？

本製品でフォーマットしていない USB メモリーを使うことはできません。また、一般的に市販されている USB メモリーでの動作テストは行っておりますが、全ての USB メモリーの動作を保証するものではありません。USB メモリーのメーカーや種類によっては、正しく動作しないものがあります。

### ビデオ・フェーダーを動かしても完全に切り替わらない

ビデオ・フェーダーのキャリブレーション(校正)を行ってください。ビデオ・フェーダーを前後のどちらかに一杯に動かし、System メニューから [Video Fader Calibrate] を選んで実行してください。

### パネルのインジケータが明るすぎる／暗すぎる

ディマー調整を行ってください。System メニューの [LED Dimmer] の設定値を上げ下げしてください。

### プレビュー・モニターにラベルが表示されない

ラベルを表示しない設定になっていませんか？

System メニューの [PVW Label] を選んで詳細設定画面に入り、[Indicate] の設定を [ON] にしてください。

### MEMORY ボタンに保存できない

メモリー・プロテクトがオンになっていませんか？

System メニューの [Memory Protect] を選び、設定を [OFF] にしてください。

### 最終出力にフェードがかからない

フェード時間がゼロになっていませんか？

System メニューの [Output Fade] を選んで詳細設定画面に入り、[Time] の設定を行ってください。この設定が [0.0s] になっていると、フェードはかかりません。

### 出力に黒い映像が入る

[A-BUS/PGM] 側のボタンを押すことで出力映像をダイレクトに切り替える場合、以下の条件で PST 出力に黒い映像が入ります。

- DSK で合成を行っているときに切替操作を行った場合。
- プレビュー・モニターの表示モードで [DSK] を選び、OUTPUT 1 または 2 の出力ソースとして [PST] を選んだ場合。
- OUTPUT 1 または 2 の出力ソースとして [DSK Source] を選んだ場合。

DSK 合成中に以下の操作を行うと、出力に黒い映像が入ります。

- ピクチャー・イン・ピクチャーと DSK の同時使用中に子画面／背景を切り替える。
- DSK でロゴ／テキストを表示し、切替効果をかけている間にソースのチャンネルを変える。

# 索引

## アルファベット

### A

A/B	30
AUDIO INPUT	21
AUTO	15、28
AUTO OFF	13

### B

BANK	39
------	----

### D

DSK	15、34
-----	-------

### H

HDCP	25
HDMI	19

### K

KEY LEVEL	35
-----------	----

### M

MEMORY	14、39
MIDI	16、52
MIDI VISUAL CONTROL	52
Mixer	36

### O

OUTPUT	14
OUTPUT FADE	14、32

### P

PinP	15、33
POSITION	38
PVW	14

### R

RGB	19
RS-232C	16、52

### S

SCALING	15、34
SETUP	15、44
Shared Input	21
SIZE	38
STORE	39

### T

TALLY	16、22
TRANSITION	28

### W

WIPE PATTERN	15、28、31
--------------	----------

## かな

### お

オーディオ	21、42
オーディオ・フォロー	37

### こ

コンポーネント	20
コンポジット	20

### そ

ソース	18
-----	----

### ひ

ピクチャー・イン・ピクチャー	33
ビデオ・フェーダー	15

### ふ

ファクトリー・リセット	43
フェード・アウト	32
フェード・イン	32
フォーマット	23

### ら

ラベル	42
-----	----

### り

リップ・シンク	37
---------	----

## お問い合わせの窓口

---

- 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター **050-3101-2555**

電話受付時間： 月曜日～金曜日 10:00～17:30（弊社規定の休日を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ4回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

- 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ <http://www.roland.co.jp/>

'13. 04. 01 現在 (Roland)

---

